

令和元年度 仙台版防災教育

研究推進取組発表校報告書

令和2年3月

仙台市教育委員会

令和元年度 研究推進取組発表校 一覧

学校名	割当区	年間指導計画作成上の工夫	ページ
第二中学校	青葉区	・「人的または物的な活用をした防災教育」 ・「教科・領域等に関連した防災教育」	1 ~ 2
木町通小学校	青葉区	・様々な外部団体と連携し、実地体験なども取り入れた総合的な防災教育 ・保護者や地域とともに考え、震災の記憶を継承し、地域の一員としての意識を高めた防災教育	3 ~ 4
立町小学校	青葉区	・防災対応力（防災の力+災害対応の力）の育成	5 ~ 6
三条中学校	青葉区	・「保護者や地域、外国人と連携した防災教育」	7 ~ 8
通町小学校	青葉区	・防災意識を高める防災教育 ～防災・減災を自分ごとと考えられるように～	9 ~ 10
荒巻小学校	青葉区	・震災の記憶の風化防止と将来の自分たちの命を守るように。 ・3年生の総合的な学習の時間で防災を課題に、ゲストティーチャーと震災遺構荒浜小学校を活用し、児童が実感しながら学習を進める。	11 ~ 12
八木山中学校	太白区	・教科等横断的な視点で組み立てた実践	13 ~ 14
八木山小学校	太白区	・「震災の教訓と記憶の風化防止のために、人的または物的な教材を生かした防災教育」	15 ~ 16
芦口小学校	太白区	・総合的な学習の時間を軸にした、地域と連携した防災教育の推進	17 ~ 18
折立中学校	太白区	・「地域の方と触れ合う機会を設けることで、人との関わりや、地域社会にどのように貢献していくかを考えさせ、望ましい態度を育成する防災教育」	19 ~ 20
折立小学校	太白区	・「地域と連携した防災教育」	21 ~ 22
栗生小学校	太白区	・「震災の教訓と記憶の風化の防止のために、防災・減災の正しい知識と災害時の対応力を高める防災教育」	23 ~ 24
幸町中学校	宮城野区	・防災副読本を活用した防災教育 ・地域と連携した防災教育 ・総合的な学習の時間を中心とした教科等横断的な防災教育	25 ~ 26
幸町小学校	宮城野区	・体験的な活動を取り入れ、仙台市防災副読本を積極的に活用した防災教育の推進	27 ~ 28
幸町南小学校	宮城野区	・各教科領域・行事等を横断的に考え、スパイラル的に学習や意識の高まりを目指す。 ・地域の防災を軸に、異学年交流等で経年の積み重ねができるような指導計画。	29 ~ 30
東仙台中学校	宮城野区	・体験的な活動、地域連携、ボランティア、学区周辺地域のハザードマップの活用	31 ~ 32
東仙台小学校	宮城野区	・実際の災害発生をより具体的に想定した防災教育 ・体験活動を通じた防災教育 ・地域や外部の人材を積極的に活用した防災教育	33 ~ 34
新田小学校	宮城野区	・震災の教訓を生かし、地域と連携した防災教育 ・地域の特性を知り、適切に行動できる防災教育	35 ~ 36
五橋中学校	若林区	・学区の特殊性を踏まえた防災教育	37 ~ 38
東二番丁小学校	若林区	・東日本大震災の体験者の講話や、震災遺構・震災資料を活用した防災教育	39 ~ 40
片平丁小学校	若林区	・「顔の見える防災」地域連携の推進	41 ~ 42
荒町小学校	若林区	・震災の教訓と記憶の風化の防止 ・自分の命を守り抜くために必要な実践的な知識	43 ~ 44
七北田中学校	泉 区	・地域の特性を踏まえて、地域と協力して行う防災教育 ・共助の力を高めるグループワークやボランティア活動の推進	45 ~ 46
七北田小学校	泉 区	・「震災の教訓と記憶の風化を防止するために、人的・物的な活用を生かした防災教育」	47 ~ 48
市名坂小学校	泉 区	・総合的な学習の時間を中心とした防災教育	49 ~ 50
野村小学校	泉 区	・地域と連携した総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・地域合同防災訓練から始まる「自分づくり教育」の実践	51 ~ 52
中山中学校	泉 区	・避難訓練と地域防災訓練をメインとした防災教育	53 ~ 54
中山小学校	泉 区	・震災の教訓と記憶の風化の防止のために、人的または物的な資源を生かした防災教育	55 ~ 56

【報告書の見方】

- 報告書「1 学校・地域の実態」, 「2 目指す児童生徒の姿」に示した番号は, 「仙台版防災教育年間指導計画に位置付ける事項」との関連を表しています。

仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項 ※「仙台版防災教育実践ガイド(改訂版)」P. 9 参照 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等, 震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承
--

【報告書】

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校 報告書		学校番号
仙台市立	小 中学校	担当者
1 学校・地域の実態	→ 番号	仙台版防災教育年間指導計画に位置付ける事項に関連する番号(1~5)
2 目指す児童生徒の姿	→ 番号	
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
4 児童生徒の変容		
5 実践の具体		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき, 令和2年度課題となること <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を, 教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し, その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		

仙台市立第二中学校

担当者 阿久津慎也

1 学校・地域の実態 → 3・4・5

- ・**児童生徒**：震災当時の状況や避難所生活での生活の記憶が少ない生徒がおり、災害時にどのような行動をとるのか、どのような危険があるのかを予想しにくくなっている。
- ・**保護者**：共働き世帯が多いが、学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。市内中心部に位置し、マンションに住む世帯が多い。
- ・**地域性**：学校地域合同防災訓練を行っており、町内会長をはじめとした地域の方々が参加し、生徒の活動を参観して、自治的な防災意識が高まっている。
- ・**東日本大震災時の地域の状況**：建物等への大きな被害がなかったため、避難所を利用する住民は250人程度であった。

2 目指す児童生徒の姿 → 3・4・5

- (自助) 平常時から災害に備え、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒。
- (共助) 平常時から進んで他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力し参画できる生徒。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「人的または物的な活用をした防災教育」、「教科・領域等に関連した防災教育」

4 児童生徒の変容

- (自助) 防災訓練や防災教育の授業を通して、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、避難訓練において冷静に判断し、昨年度よりも早い時間で避難することができた。
- (共助) 防災訓練や防災教育の授業を通して、進んで地域のために何ができるかを考え、非常時に他の人や地域の力になれるようにしたいと考えている生徒が増えた。

5 実践の具体

- (1) 「人的または物的な活用をした防災教育」
 - ①『自衛隊との合同防災訓練』（全学年 行事）
災害時に使用する装備の見学と乗車体験を、自衛隊の方々を招いて、行った。震災の様子も映像で知ることができ、生徒は、地域の人のためにどんなことができるかを考えることができた。
 - ②『メディアテークを活用した防災学習～3がつ11にちをわすれないためにセンターの活用～』（2学年 総合）震災時の写真を題材にして、仙台版防災教育実践ガイドの授業実践例10を1時間にまとめた授業を行った。何を語り継いでいくのか考える機会となった。
- (2) 「教科・領域等に関連した防災教育」
 - ①『自然災害に対する備え～自助・共助・公助～』（2学年 社会）
12枚の役割カードを自助・共助・公助に分け、災害発生時の中学生の役割の重要について考えた。
 - ②『わたしたちと家族・家庭と地域～家庭と地域のかかわり～』（1学年 家庭）
中学生が地域の一員として災害時にどのような場面で協力することができるのかを考えた。
 - ③『歌い継ごう～復興ソング～』（1学年 音楽）
復興ソングを題材にして、実践ガイドの授業実践例13を中学生に応用して授業を行った。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1. 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

仙台市立第二中学校防災教育年間指導計画(第1学年)

【副】:副読本を活用できる内容

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳		
4	・1学期始業式 ・入学式	・集団行動訓練 (保体)	・避難経路の確認	・集会での災害発生時の対応【副】 ・避難経路の確認【副】	・安全な登下校指導【副】 ・非常時下校体制の確認		
5	・校外学習 ・避難訓練(地震想定) ・防災訓練	・技術と環境(技術) ・わたしたちの家庭生活と地域(家庭)	・校外学習での災害発生時の対応【副】	・校外学習集団行動訓練	・自衛隊との合同防災訓練		
6	・市中総体 ・指定避難所別防災訓練	・空を見上げて(国語) ・欲求やストレスへの対応(保体)	実践(2)②	・クロスロード防災ゲーム	・市中総体時の災害発生への対応		・郷土愛 「ぼくのふるさと」
7	・校内合唱コンクール ・夏季休業			・合唱コンクールでの災害発生時の対応 ・学区清掃	・夏季休業中の安全指導		
8	・夏季休業						
9	・学習発表会	・文字や形で伝える(美術)			・学習発表会での災害発生時の対応		・生命の尊さ 「いのちって何だろう」
10	・球技大会 ・避難訓練(火災想定) ・1学期終業式 ・2学期始業式	・球技大会集団訓練(保体)			・球技大会時の災害発生への対応		・生命の尊さ 「決断1骨髄バンク移植第一号」
11	・常禅寺通落ち葉拾い	・復興ソング(音楽)	実践(2)③		・落ち葉拾いでの災害発生への対応		・生命の尊さ 「あなたはひかり」
12	・冬季休業				・冬季休業中の安全指導		
1	・冬季休業	・大地の変化(理科)【副】					
2	・予餞式	・資料の整理(数学)					
3	・東日本大震災追悼行事 ・卒業式 ・修了式 ・学年末始休業中				・震災の教訓 ・学年末始休業中の安全指導		・生命の尊さ 「見沼に降る星」

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 002
仙台市立木町通小学校	担当者	伊世 貴志
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：・地震発生のメカニズムを理解し、災害時には適切に避難できる力が身に付いている。 ・津波や水害に対する備え、地域のために行動する態度には課題が見られる。 ・子供会加入率が低く地域での異年齢集団が形成しにくいいため、たてわり活動を実施している。 ・保護者：・東日本大震災の教訓を子供たちへ伝えたい、子供たちを守りたいという意識が高い。 ・地域性：・頑強なマンションが多く、災害時には屋外へ避難するよりも、自宅に待機する家庭が多い。 ・学校と合同で地域防災訓練を実施しているが、参加者は限定されている。 ・東日本大震災時の地域の状況： ・地域住民よりも、学区内にある大学病院や企業の職員、帰宅困難者など、約1000人が避難した。避難所運営には教職員が主体にならざるを得ない場面が多く、課題が見られた。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・4
<p>(自助) 様々な災害に対する知識を備え、自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。</p> <p>(共助) 互いに協力し合い、進んで他の人々や地域のために行動できるようにする。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>様々な外部団体と連携し、実地体験なども取り入れた総合的な防災教育</u> ・ <u>保護者や地域とともに考え、震災の記憶を継承し、地域の一員としての意識を高めた防災教育</u> 	
4 児童生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震だけではなく、水害や津波に対する知識や心構えなどを身に付けることができた。 ・ 荒浜小学校見学や地域防災マップづくりを通して、身近な場所に起こりうる災害について予見する意識が育まれた。 ・ 保護者や地域を交えた防災学習では、震災時の様子などを詳しく学び、継承していく意識が育った。 	
5 実践の具体	<p>(1) 4年総合「防災マップをつくろう」の授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、4学年の総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、15時間を防災の時間に充てた。前半10時間で防災マップ作りを目指し、実際に町を歩く活動では、東北福祉大の防災士14人に依頼し、14グループそれぞれに同行していただき、アドバイス等を得ながら作成した。発表会でも防災士に来ていただき、成果を発表した。後半の5時間では、荒浜小学校を見学し、防災に対する考えを深めた。 <p>(2) 学校地域合同防災訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月の合同防災訓練では、1校時に避難訓練、2・3校時に防災教育、4校時に引渡し訓練、というように半日かけて防災学習を行っている。特に2校時は地域と連携し、様々な外部団体による出前授業などを行う。3校時は保護者の参加も促し、防災副読本を活用して親子で防災を学ぶ時間としている。 <p>(3) 「復興への思い」に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高学年では、復興への思いが持てるよう、上述の親子防災学習や道徳、各教科、復興プロジェクトなどで意識を高めている。また中学校での防災教育も見据え、地域のリーダーになれるよう、挨拶運動や小中連携事業などで啓発していく。 	
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 	

木町通小学校 4学年 防災教育年間計画

防災教育目標	<p>【知識】①大規模地震や津波などの発生のメカニズムやそれらに備えた地域の防災体制の仕組みを理解する。〔自助〕</p> <p>【技能】②災害発生時には、教員や大人の指示に従うとともに、状況に応じて自らの命を守るために適切に行動できるようにする。〔自助〕</p> <p>【態度】③災害発生後には、進んで家族や友達など皆で協力して助け合うことができるようにする。〔共助〕</p>
--------	--

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活		道徳	
	4	・臨時避難訓練(放送)	【社会】地震からくらしを守る(人々の安全を守る関係機関の働きを知る) 【第5章②】				
5	・一斉下校訓練 ・学区巡視	【社会】水はどこから(水の大切さを知る) 【第4章④】					・何かお手ついでできることはありますか? (親切・思いやり)
6	・地域合同防災訓練 ・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 【第1章①～③ 第4章⑤⑥】		・防災マップをつくろう ・荒浜小学校見学	・地震から身を守ろう 【第4章①, ②】			・わたしの見つけた小さな幸せ (生命の尊さ)
7		【体育】浮く・泳ぐ運動(水の事故から身を守る)					・「もっこ」をせおって(勤労・公共の精神)
8	・臨時避難訓練(業間)						
9							
10	・一斉下校訓練 ・学区巡視						・バルバオの木 (生命の尊さ)
11	・避難訓練(火災)						・しょうぼうだんのおじいさん (感謝)
12		【社会】県やわたしたちのまちの発展(宮城県の地形や発展を知る)					・千春とわたし (家族愛)
1		【社会】きょう土を拓いた人(水害などの大変さ) 【第4章⑧, 第6章③】	・やさしさ町探検(バリアフリー、避難施設の確認)				
2							・走れ江ノ電 光の中へ (生命の尊さ)
3	・復興プロジェクト集会 【第2章①～⑥】						

〔 〕内は、仙台版防災教育副読本との関連

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書	学校番号 003
仙台市立立町小学校	担当者 小阪 周諭
<p>1 学校・地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒：震災から8年以上が過ぎ、ほとんどの児童は、当時の記憶がない。実際に大きな地震が起きたときにどのような行動をすればよいかということは、避難訓練を繰り返すことで理解はできている。しかし、実際に大きな災害が起きたときに落ち着いて正しい行動をとることができるかは分からない。また、学区内には土砂災害が起こる可能性が高い地域がある。それを知らない児童も多い。家の周りや様子を知り、災害時の行動を家族と確かめ理解することに課題がある。 ・ 保護者：引き渡し訓練や学校の行事に参加してくれる協力的な保護者が多い。PTA活動も盛んで、様々な行事に参加してくれている。 ・ 地域性：学校に対してとても協力的である。また、青葉消防署と連携して地区合同避難訓練を開いてくれるなど、防災意識もとても高い地域である。 ・ 東日本大震災時の地域の状況：市街地であったため、家屋の倒壊などはなかった。学校は避難所にはなったが、避難してきたのは、地域の方よりも、家に帰れなくなった方の方が多かった。避難所運営は、町内会と学校が中心となって行ったがほとんどが手さぐりの状態だった。 	
<p>2 目指す児童の姿</p> <p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童。</p> <p>(共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童。</p>	
<p>3 年間指導計画作成上のポイント</p> <p>防災対応力（防災の力＋災害対応の力）の育成</p>	
<p>4 児童生徒の変容</p> <p>震災のことが記憶にない児童が多く、当時の地震や津波の大きさを理解していない児童が多かった。また、震災が起きた際には、どのような行動をとればよいか理解はしているつもりでも、具体的な行動の内容までは分かっていた。しかし、立町地区合同防災避難訓練を行うことで、実際にとるべき具体的な行動を理解することができてきた。荒浜小学校を見学した児童は、実際の被害の状況を見ることができ、改めて被害の大きさを感ずることができた。また、荒浜小学校の校長先生だった川村先生の話聞き、津波がきたときの避難のしかたや、震災時の避難のしかたを詳しく理解することができた。</p>	
<p>5 実践の具体</p> <p>(1) 立町地区合同防災訓練の実施（高学年 学活）</p> <p>6月に地区と青葉消防署と学校が合同で防災訓練を行った。内容としては、始めに体育館で、青葉消防署の方からAEDの使い方を学んだり、心臓マッサージのやり方を学んだりした。その後、4つのグループに分かれ「消火訓練」「応急訓練」「防災資材」「食料配給」の訓練を行った。</p> <p>(2) 震災遺構仙台市立荒浜小学校見学学習を実施（5年 道徳）</p> <p>11月に震災遺構仙台市立荒浜小学校を見学学習に行った。実際に被害に遭った小学校を見学することで、震災の被害がとても大きかったことを学んだ。</p>	
<p>6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度の課題となること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年の防災教育の実践状況の把握。また、副読本の効果的な活用。 ・ 地域の地理的な条件を踏まえ、停電や土砂崩れなどの、より実際の災害時に近い状況を想定した訓練の計画・実施。 	

防災教育年間指導計画（5年）

仙台市立立町小学校 第5学年

目指す児童の姿（高学年） ・災害発生のメカニズムを理解し、安全で快適な地域づくりのために必要な環境整備について理解する。【知識】 ・災害時の避難所として学校の役割を理解し、安全な避難ができる。（率先避難者・登下校・授業・家庭生活）【技能】 ・夢や目標を持った生活をし、やさしさと思いやりの心を持って生きることの大切さを理解し、進んで公共の福祉のために尽くそうとする態度を身に付けるとともに、困難に負けない強い心を持ち助け合うことができる。【態度】
--

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	年間指導計画・組織 避難経路の確認 学区・通学路の安全点検 避難訓練(火災) 防災器具の点検	団 集団行動 理 天気の変化		1章②歩み出す 力強く(学) 避難訓練事前指導	登下校安全	感謝	
5	家庭訪問 JRC加盟登録式 たてわり活動顔合わせ 一斉下校訓練	社 国土地形 4章③応急手当の方法と 救急車の呼び方(体)		防災マップ作り 非常時下校体制確認	たてわり活動顔合わせ	勤労、公共の精神	
6	避難訓練(地震) 水泳安全指導 引き渡し訓練 立町地区合同防災訓練 たてわり活動	団 水泳 理 国土気候	川環境調査 (広瀬川)	災害発生時の対応 合同防災訓練での訓練への参加 避難訓練事前指導 4章④災害時をくらす ヒント(行)	たてわり活動	親切、思いやり	
7	職員研修 救助・蘇生法 学校配備品の確認	団 水泳 保 けが防止			夏休みの安全指導	生命の尊さ 2章①希望の歌 ～「ない」～(道)	
8	防災器具の点検 学区・通学路の安全点検	団 水泳 理 天気変化(台風)			登下校安全	真理の探究	
9	野外活動	3章②いろいろな自然 災害(理)	野外活動	災害発生時の対応		よりよく生きる喜び	
10	たてわり遠足	家 元気な毎日と食べ物 理 流れる水の働き 4章⑦心と向き合って(体)			たてわり遠足	勤労・公共の精神 わたしのボランティア体験(道)	
11	避難訓練(休み時間) たてわり活動	国 森林のおくり物			2章⑤立ち上がり！ぼくらの復興プロジェクト (行) 避難訓練事前指導	たてわり活動	生命の尊さ
12	職員研修 防災教育講話 一斉下校訓練	3章③災害時の情報手段 (社)			非常時下校体制確認	冬休みの安全指導	親切、思いやり
1	学区・通学路の安全点検	保 心の健康 理 情報を生かす				登下校安全 5章④広がれつながれ みんなの思い(学)	個性の伸長
2	防災器具の点検 たてわり活動	社 森林と環境 3章①地震と津波のメカニズムと災害(理)	サケの稚魚放流 (広瀬川)			たてわり活動 5章⑤思いを形に(学)	感動・畏敬の念 一本松は語った(道)
3	東日本大震災関連行事	社 自然災害を防ぐ 音 復興ソングを歌い継ごう			自助・共助 6章①防災知識を チェックしよう(学) 6章③仙台市災害・復興年表(学)	春休みの安全指導	よりよい学校生活、 集団生活の充実

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 203
仙台市立三条中学校		担当者 安藤 弘樹
1 学校・地域の実態	➡ 2・3・4	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：行事など、集団で取り組む活動には非常に意欲的で、所属集団で力を合わせて頑張る姿が見られる。素直で思いやりのある生徒が多く、地域の行事やボランティア活動に進んで取り組む姿は、地域からも好意的に評価されている。地域の外国人と接する機会も多い。 ・保護者：古くからの住民も多く、学校や地域活動に対して関心が高く、協力的である。母子家庭、父子家庭が多い。 ・地域性：北山地区の一部には、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域となっている斜面が散在している。学区内に大学の国際交流会館があり、外国籍の住民(留学生)も多い。 ・東日本大震災時の地域の状況：地域としては、沿岸部から大きく離れた場所にあり、津波などの被害を直接受けることはなかったが、東北大留学生寮が近くにあり、500人を超える留学生やその家族が三条中に避難した。「外国人の避難所は三条中」という情報が外国人の間に広がり、様々な国の人が同じ避難所で生活する中、習慣による軋轢も生じた。(2017年10/30 朝日新聞記事より) 		
2 目指す児童生徒の姿	➡ 2・3・4	
<p>(自助) 災害の自然的・社会的要因をつかみ、今後の防災体制を考える。 災害から生命を守るのに必要な能力や資質の向上を図る。</p> <p>(共助) 人間としての在り方・生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神を養う。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「保護者や地域、外国人と連携した防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<p>外国籍の住民が多いことを把握し、普段から相互の文化の違いを理解するため、外国人との交流を深め、協力して防災(「災害時多文化共生」)にあたる準備をしようと考えようになった。</p>		
5 実践の具体		
(1)5/27(月)集団下校訓練 コース毎に分かれ、教員主導で、集団下校訓練を実施		
(2)11/2(土)合同防災訓練 国見地区東部ブロック六町内会 合同防災訓練の実施		
<p>閉会行事の際、東日本大震災の時の避難所の様子を、当時の校長先生からお話いただいた。外国人の地震への経験不足による不安、各国の生活習慣の違いや、避難所運営での言葉の壁や情報不足による軋轢、また、互いの思いと理解し合える機会の不足から生じていた不信感などについて、合同避難訓練に参加した地域住民と外国人が、同じ訓練を体験し、震災当時の様子を改めて情報共有することを通して、お互いに理解し合えた。災害時の避難所において協力することの大切さがわかり、今後も交流が必要であるなどの発言から、受入側と外国人との不信感などの意識の壁の解消に大きな改善が見られたと言える。</p> <p>避難所での外国人の言動に対して、日本人には理解し難い内容もあったようだが、防災上、本当の意味での「異文化理解」や「外国人支援」を考えると、礼拝スペースの確保、多言語表示シートの準備、ハラル食やベジタリアンの対応等、その他、課題が多いことを改めて認識し、方向性も考えることができた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。		
<input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。		
<input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

令和元年度 仙台市立三条中学校防災教育年間指導計画 第1学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
月	学習内容	防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
4	・通学路の安全確認 ・学級連絡網作成 ・校内安全点検	・集団訓練 (保体)	・避難経路の確認		・あいさつ運動(毎月) (副) 東北地方太平洋地震発生	・優しい心	
5	・避難訓練 ・校内安全点検		・森林学習時の災害発生への対応		(副) 絆を力に一歩ずつ	・家族のきずな	
6	・非常時下校訓練 ・校内安全点検	・地域の調査に出かけてみよう(家)	・非常時下校訓練事前並びに事後指導 ・災害と安全		(副) 自分の身は自分で守る		
7	・復興プロジェクト ・校内安全点検		・夏休みの生活				
8	・夏祭り等地域行事 ・校内安全点検	・着衣水泳 (保体)	・地域行事への参加		(副) 助け合うってすばらしい	・より良い 集団づくり ・好ましい 世の中	
9	・校内安全点検						
10	・地域合同防災訓練 ・校内安全点検		・集団下校体制の確認		・地域合同防災訓練事前事後指導	・心のあた たかさ	
11	・復興プロジェクト ・校内安全点検		・校内危険箇所確認			(副) はじまり	
12	・校内安全点検		・冬休みの生活		・安全な生活	・かけがえ のない家族	
1	・校内安全点検	・動き続ける大地や火山の分布(理科)				・生命の尊 さ ・真の国際 貢献	
2	・校内安全点検	・大地の変化を読みとる (理科)			(副) 3.11の自身を科学の 目でとらえよう (副) 心の健康	・支え合う 家族 ・思いやり	
3	・東日本大震災関連行事 ・校内安全点検	・地震について知ろう (理科)	・春休みの生活		・震災の教訓	・善意や支 えへの感謝	

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 009
仙台市立通町小学校		担当者 今井 由紀子
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：児童数は370名、学級数は15学級（特別支援学級3学級含む）で、震災時に幼少期だった児童がほとんどである。被害が少なく復旧が早かったため、防災意識が希薄な児童も多い。防災・減災の知識を学び、日頃から防災・減災に対して意識できる心情を醸成していく指導を行う必要がある。 ・保護者：協力的な家庭が多く、学校支援地域本部のボランティア登録が年々増加している。PTA活動にも熱心な保護者が多く、引き渡し訓練など行事への参加率も高い。古くからの居住者とマンション等の居住者がおり、地域的なつながりが薄いようである。 ・地域性：町内会が30以上あり、連合町内会に所属している数は27である。新旧の住宅が混在し、マンション等が多く、家族構成も多様である。連合町内会に未所属町内会があり、共助の面で課題が多い。近年、高齢者居住率が高くなり、地域課題でもある。連合町内会主催の防災訓練を始めたのが震災以降である。防災組織の構築が望まれる一方、震災時のライフライン安定が防災意識の希薄さにつながっている。 ・東日本大震災時の地域の状況：震災直後ライフラインへの影響は少なく、復旧も早かった。校舎に亀裂が入ったが、校舎体育館は使用可能だった。学区内もほぼ被害はなく、開設した避難所に、近隣マンション居住者が多く避難し、避難所運営に関して学校への依存が高い傾向にあった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・3・4
<p>(自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、落ち着いて行動し身を守ることができる児童</p> <p>(共助) 互いに思いやる心やボランティア精神を養い、災害発生時やその後の対応について行動できる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
防災意識を高める防災教育 ～防災・減災を自分ごとと考えられるように～		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの講話や授業を経験し、防災用品に関心を持ったり、避難方法を家族と話したりすることが増え、自分のできることを具体的に考える言動が増えた。 ・地形の特徴を知り、起こりうる災害について基礎的な知識を身に付けることができた。 		
5 実践の具体		
<p>(1) ゲストティーチャーによる防災授業</p> <p>①校長先生による「石巻の小学生の東日本大震災」講話（5・6年：総合的な学習の時間） 震災後に同年齢の子ども達が「地域のために何ができるか」を考え、活動した話を聞いた。当時の活躍や苦労したことを聞き、今の自分達にできることについて感想を出し合った。</p> <p>②東北大学減災教育「結」プロジェクト（5年：総合的な学習の時間・社会） 地震のメカニズムや東日本大震災の津波の様子を映像で確認し、災害時にどのような行動が必要かグループで考えた。「災害時に自分が大切にしたいこと」を考え、正解がない行動パターンをグループ発表し、全体でも共有した。</p> <p>(2) 防災・身体保護を意識した避難訓練と授業展開（全学年） 各学級で、避難経路や安全確保行動（シェイクアウト訓練）、防火扉の使い方を常時掲示した。また、仙台版防災教育指導項目を避難訓練実施計画に記載し、発達段階に応じて生活の中で意識できる指導ができるように工夫した。5年生では、台風19号接近時の学校周辺動画を教材にし、事後指導を行った。6年生では、荒浜小見学後の授業参観で「防災かるた」作りを行い、保護者と一緒に読み札を考えた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> □ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 ■ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

防災教育年間指導計画

通町小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	関連行事等						
4	・避難訓練(避難経路確認) ・交通安全教室				・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す 力強く(1章②)	
5	・復興プロジェクト ・集団下校訓練 ・自宅確認(家庭訪問)				・集団下校のための縦割活動		
6	・安全点検 ・引渡訓練 ・地域防災訓練 ・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練	・けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦:体育)			・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥)		
7	・安全点検 ・復興プロジェクト	・できるようになったかな家庭の仕事(家庭) ・着衣水泳(体育)				・夏休みの生活	☆希望の詩～「ない」～(2章①)
8	・交通指導 ・避難訓練(休憩時)					・地域行事への参加	・2(3)友情・信頼
9	・安全点検	・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③:理科)		・野外活動時の災害発生への対応			・3(2)自然愛・環境保全
10	・野外活動 ・避難経路確認(防火扉) ・避難訓練(Jアラート) ・避難訓練(火災)	・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合っ(4章⑧:体育)					
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)				☆立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト(2章④) ・避難訓練事前事後指導		・3(1)生命尊重
12	・安全点検	・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会)				・冬休みの生活	
1	・交通指導 ・安全点検						
2	・安全点検					☆Heroes 2011 Japan(5章⑤)	
3	・安全点検	・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3章④:社会)			☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活	

☆ 副読本活用

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号036
仙台市立荒巻小学校	担当者	及川治芳
1 学校・地域の実態	➡	1
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：本校で、東日本大震災が起きた日を「2011年3月11日」と答えられる児童の割合は、6年生85%、5年生74%、4年生64%、3年生43%と減ってきている。（5月） ・保護者：共働きの世帯が多いが、引渡し訓練にはほぼ全ての家庭が参加している。地域の防災訓練への関心は高いとは言えない。 ・地域性：地域防災協議会で避難訓練を毎年行い、避難訓練と防災倉庫の見学などを行っている。中学年児童は、社会科で学校に近い荒巻コミュニティセンターに併設された消防団の施設を見学する。4年目になる学習発表会の復興太鼓は、震災の教訓と記憶の風化の防止、及び児童の未来の家族を守る取組として保護者から高く評価されている。 ・東日本大震災時の地域の状況：東日本大震災時の地域の状況：地盤が固く、家屋への被害はほとんどなかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	3・2
<p>(自助) 周りの状況を判断し、自分の命を守るための行動ができる児童。</p> <p>(共助) 災害発生時には家族や地域の方と協力し活動することができる児童。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の記憶の風化防止と将来の自分たちの命を守れるように。 ・3年生の総合的な学習の時間で防災を課題に、ゲストティーチャーと震災遺構荒浜小学校を活用し、児童が実感しながら学習を進める。 	
4 児童生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・「津波」「震災」の言葉を知らなかった児童たち一人一人が、被災地のために思いを持って復興太鼓を叩き、人々の命を守るために伝承していくことの大切さを感じていた。 	
5 実践の具体	<p>(1) 「絵灯籠の願いと作り方を学ぼう」（総合的な学習の時間、親子学年行事） 東日本震災の様子を名取市の語り部に映像も使いながら話してもらった。灯ろう流しの意味、被災地の人々の思いの変化などの話は、被災地のために自分たちにできることを考えるきっかけとなった。話を聞いた後に親子で灯ろうの絵を描いた。どんな思いで太鼓を叩くか、一人一人のめあてが決まった。</p> <p>(2) 学習発表会で震災の記憶伝承と命を守ることの大切さを全校と地域に伝えよう 学習発表会の舞台上、語り部から聞いたことや震災遺構の見学を通して感じたことを灯ろうと太鼓を用いて発表した。</p> <p>(3) ど根性ひまわりの種を袋詰め・配布。 袋のラベルを考え、みんなで種を袋詰めし、配布の準備をした。</p>	
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること	<ul style="list-style-type: none"> □ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 ■ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 	
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

防災教育年間指導計画

荒巻小学校 第3学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合		特別活動	道 徳	
	関連行事等						
4	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路確認 避難訓練(休憩時) 交通安全教室 防犯子どもを守ろうデー 	【社】学校のまわり	《テーマ》 『震災と未来のわたしたち』		・安全な登下校		☆たった一つのもの(1章③)
5	<ul style="list-style-type: none"> 防犯訓練 地域訪問 学区民運動会 防犯子どもを守ろうデー 	【体】集団行動			☆ひなんのし方を考えよう(4章③)		・4(5)郷土愛
6	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命講習会 避難訓練(地震) 引き渡し訓練 防犯子どもを守ろうデー 	【社】仙台市のようす 【体】水泳	・ど根性ひまわりの栽培	・東日本大震災の被害とその後の生活	・避難訓練事前事後指導 ☆地しんについて知ろう(3章①)		・すすんで手助けしよう
7	<ul style="list-style-type: none"> 復興プロジェクト 防犯子どもを守ろうデー 		・震災後に行われているイベントを調べる。			・夏休みの過ごし方	☆大切なこと(2章⑤)
8	<ul style="list-style-type: none"> (地域行事への参加) 防犯子どもを守ろうデー 					・地域行事への参加	
9	<ul style="list-style-type: none"> 防犯子どもを守ろうデー 		・絵灯ろうを作る。	・名取市の被災時の状況や被災地の人々の思いを聞く。	☆自分でできる(4章④)		
10	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携避難訓練 防犯子どもを守ろうデー 	【理】☆雨・風・かみなりについて知ろう(3章③)		・荒浜小震災遺構の見学	☆家族ぼうさい会をひらこう(4章⑤)		
11	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練(火災) 防犯子どもを守ろうデー 		・復興和太鼓(ど根性太鼓)の演奏	☆ふるさとを元気に自分たちができること(2章③)	・避難訓練事前事後指導		・4(3)家族愛
12	<ul style="list-style-type: none"> 防犯子どもを守ろうデー 	【体】☆けがをしたときは(4章⑧)				・冬休みの過ごし方	
1	<ul style="list-style-type: none"> 防犯子どもを守ろうデー 		☆たくさんのおうえん(5章①)				◇おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね
2	<ul style="list-style-type: none"> 新年度計画作成 防犯子どもを守ろうデー 					☆つたえようわたしたちのことばで(5章⑥)	
3	<ul style="list-style-type: none"> 復興プロジェクト 防犯子どもを守ろうデー 		・学習してきたことを故郷復興プロジェクト・校内放送で発表する。		☆ぼうさい知しきをチェックしよう(6章①) ☆仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう(6章③)	・春休みの過ごし方	

☆ 副読本活用

仙台市立八木山中学校

担当者 石垣 和男

1 学校・地域の実態 → 2, 4

- ・**児童生徒**：震災時には、3年生が小学校1年生の時であった。地震後の記憶としては、両親と長蛇の列に並び買い物に行った等の記憶が残っている程度である。総合の時間に地域の防災連絡会の方などから、1年生では、災害時にどのような行動をとるべきかを楽しく踊りながら幼児や小学校低学年の児童に伝える防災ダックや防災ダンスを学習した。2年生は、防災教育講演会を開催し、中学生の家庭や地域における人数に対して災害時に避難所に受け入れられる人数は、住民の100分の1程度しかないので、自宅が危険ではないときには自宅で過ごす自助が大切であること等を学習した。
- ・**保護者**：各地区での地域防災訓練には、多くの保護者や地域の方が例年は参加している。また、八木山中祭や校内バレーボール大会、校内合唱コンクール等の学校行事への参加者も多い。
- ・**地域性**：八木山地区では、防災意識を高めようとしている地域の店舗や病院、学校が参加して活動している「仙台八木山防災連絡会」という組織がある。活動内容としては「地域防災シンポジウム in 八木山（今年度9回目）」「八木山中学校区・八木山小学区・八木山南小学校地域総合防災訓練」「八木山フェスタ・八木山中祭等での展示発表」など積極的に防災に関する行事に参加し、国からも防災功労者内閣総理大臣を表彰されている。
- ・**東日本大震災時の地域の状況**：半壊の家屋もあったが、電気やガスなどのインフラも早めに復旧し、沿岸部ほどの大変さはなかったようである。

2 目指す児童生徒の姿 → 3, 4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対処法を身に付け、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保する力を育成する。
- (共助) 日頃から人々と関わり、災害時に進んで他の人や地域のために行動できる実践力を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント
教科等横断的な視点で組み立てた実践

4 児童生徒の変容

自助、共助の具体を知り、災害時に自分で判断して行動できる力を身に付けた。また、災害時の行動を、子供や身近な家族に伝えられるようになった。

5 実践の具体

- (1) 「防災訓練」(全学年)
「仙台版防災教育副読本 3.11 から未来へ」を使った時間と地震想定と火災想定避難訓練とセットで年2回行われる。震災のことを思い出し忘れないようにする。また、災害はいつ起きるか分からないので、避難訓練の大切さを伝える。
- (2) 「防災ダック・防災ダンス」(1学年)
カードを使って幼児や小学校低学年の児童に分かりやすく、災害時にとるべき行動を知らせるゲームとダンスを学習した。職場体験活動時に保育所や幼稚園などでの発表を行った。
- (3) 「防災教育講演会」(2学年)
災害時に、避難所には地域住民が全員入れないので、家庭でどのように過ごせばよいかを学習した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	学校行事など	防災・安全関係行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳	
4	始業式 入学式	校内安全点検 登校指導 地区生徒会	健康と環境（保体）			避難経路の確認 非常時下校体制の確認	
5	野外活動	校内安全点検 復興プロジェクト	健康と環境（保体）			連絡網の確認 旅行的行事事前指導	3-(2)「樹齢七千年の杉」 3-(2)「輝かしい最後」
6	市中総体 中間考査	校内安全点検 防災訓練 地区清掃	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「復興に駆ける」(技家) 住まいの安全対策(技家) 災害への備え(技家) 日本の自然災害と防災(社会)			防災訓練 避難方法と避難経路の確認 仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「一人一人が災害に備える」 市中総体時の安全指導	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「花と緑で人々に笑顔を」
7	合唱コンクール	校内安全点検 復興プロジェクト 防災講話 夏期休業中の安全指導 第1回仙台八木山防災連絡会例会(中学生参加)	メディアと上手に付き合うために(国語)			合唱コンクールでの安全指導 夏期休業中の安全指導	防災連絡会例会への参加 仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ「助け合うってすばらしい」 4-(8)「アップロード作戦」
8	2年職場体験学習	校内安全点検(地域行事)					地域行事への参加
9	八木山中祭 期末考査	校内安全点検 八木山中祭(防災連絡会の展示) 第2回仙台八木山防災連絡会例会	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「古典に残る災害を讀んでみよう」(理科)				4-(9)「国」
10	終業式 新人大会 校内バレーボール大会 生き方講話	校内安全点検	九州地方の自然環境(社会) 天気とその変化(理科) 健康と環境(保体)			新人大会時の安全指導 校内バレーボール大会時の安全指導	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「1.17から3.11へ」 4-(6)「美しい母の顔」 4-(6)「赤い音」
11	中間考査 科学館学習	校内安全点検 防災訓練 地域防災訓練 復興プロジェクト 八木山フェスティバル 第3回仙台八木山防災連絡会例会(中学生参加)	話し合っって考えを広げよう(国語) 神戸の防災(社会) 天気とその変化(理科)	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「地域の一員として」		防災訓練 避難方法と避難経路の確認 仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「心を満たす食べ物をお届ける」	防災連絡会例会への参加
12	教育相談	校内安全点検 防災シンポジウム in 八木山	天気とその変化(理科) 傷害の防止(保体) 仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ「仙台平野災害の歴史を学ぼう」(社会)				
1	実力考査	校内安全点検	東日本大震災(社会) 化学変化と原子分子(理科) 傷害の防止(保体)				4-(6)「一冊のノート」 3-(1)「命の重さ」
2	期末考査	校内安全点検 第4回仙台八木山防災連絡会例会	化学変化と原子分子(理科)				仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「心に寄り添う」
3	予餞会 卒業式 修了式	校内安全点検 復興プロジェクト	化学変化と原子分子(理科) 身近な地域の調査(社会) 健康と環境(保体) 障害の防止(保体)			仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「防災知識をチェックしよう」	仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ 「仙台の自然災害年表・復興年表」 2-(6)「ありがとう」

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 049
仙台市立八木山小学校		担当者 高橋 勇気
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：震災当時はまだ未就学児だったため記憶も断片的であり、ほとんどの児童が当時のことをあまり覚えていない。地域の総合防災訓練や授業を通して自助の意識は育ってきている。しかし、東日本大震災における住民の助け合いの様子の具体や仙台市でどのようにして復興がなされてきたのかといった共助面での理解は不十分である。 ・保護者：共働きが多いが、引渡し訓練などの学校行事への参加者は多く、協力的な家庭が多い。防災教育への意識は家庭ごとに差が見られるが、学校評価アンケートで「実際の場面で役立つ知識を親子で学びたい」といった意見も多く見られる。 ・地域性：防災協会や防災連絡会が地区長や関係機関を中心に運営されており、避難訓練や防災関係のイベントに携わっている。 ・東日本大震災時の地域の状況：小学校校庭に液状化が見られた。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1 - 3
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に自分で判断し、最善の行動が取れる児童</p> <p>(共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となれる、共生とボランティアの精神にあふれた児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「震災の教訓と記憶の風化防止のために、人的または物的な教材を生かした防災教育」		
4 児童生徒の変容		
荒浜小の見学を通して、震災当時の様子や復興に向けた現在の取組を知り、共助の思いが高まった。		
5 実践の具体		
<p>単元の導入では、防災副読本や写真資料等を提示し、児童に東日本大震災の様子を捉えさせ、課題の設定につなげた。津波被害の様子が分かる写真に焦点化させ、「津波被害のあった荒浜小学校について調べよう」という共通課題を設定した。児童にそれぞれ調べたいことをリストアップさせたが、この段階では、東日本大震災のときの様子に注目したものが多かった。</p> <p>情報収集では、実際に荒浜小に行き、解説を受けながら校舎内を見学した。津波被害の状況や当時荒浜小にいた教員や児童の様子だけでなく、復興に向けてどのような取組が行われているのか、そのための震災遺構・荒浜小であるということを知った。</p> <p>整理・分析では、調べてきたことをもとに、分かったことを整理させた。実際に津波の被害に遭った荒浜小に足を運んだことで、写真だけでは伝わらない津波の恐ろしさやそのときの人々の思いの一端に触れた。また、防波堤として活用するため道路をかさ上げしたり、海岸に防災林を植え直したりといった復興に向けた取組があることが分かった。さらに、辛い思いをしながらも、震災を風化させないために震災遺構として荒浜小を残すことに賛成した人々の思いがあるのだということが分かった。</p> <p>まとめ・表現では、「自分たちも震災のことを語り継いでいきたい」という思いから、調べたことを一人一人が新聞にまとめ、校内に発信した。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

防災教育の重点【高学年】：災害が発生したときに、自ら適切な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りができるようにする。					
防災対応力の構成要素		知識		技能	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	
月	教科・領域 関連行事	教科	総合	特活	道徳
4		理科「天気の変化」 雲の量や動きと天気の変化の関係を知る		<ul style="list-style-type: none"> 登下校の安全【安全P2～P6】 避難経路の確認 非常時下校体制の確認 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 児童宅確認訪問 避難訓練（地震） 自転車安全教室 	社会「わたしたちの国土」 国土の地形や気候の概要を知る	お米はみんなのたからもの 八木山と泉ヶ岳の自然を比較しよう 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練事前事後指導【安全P24～P28】 自転車安全教室【安全P19～P23】 校外学習事前指導【安全P7～P11】 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし活動 なかよし応援 父の言葉－黒柳徹子（親切）
6	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行（6年） 引渡し訓練 		お米はみんなのたからもの 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 集団下校訓練事前指導 引渡し訓練事前指導 防犯訓練【安全P29～P31】 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし活動 キャプテン（希望・勇気・努力） ボランティアクラブに入って（勤労・社会奉仕）
7	<ul style="list-style-type: none"> 防犯教室 八木小まつり 	体育「水泳」 家庭科「できるようになったかな家庭の仕事」 自分にできる仕事を考え、工夫しながら継続的に実行する	お米はみんなのたからもの 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の家族の約束 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの生活【安全P17】
8	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りなどの地域行事 	保健「心の健康」【4章7】 心の発達及び不安、悩みへの対処について理解できるようにする	自然災害について考えよう		
9	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練（休憩時） 	理科「台風と天気の変化」【3章2】 台風による災害を知る	お米はみんなのたからもの 自然災害について考えよう 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練事前事後指導【安全P24～P28】 	<ul style="list-style-type: none"> 全校奉仕活動 なかよし活動 命のアサガオ（生命尊重）
10	<ul style="list-style-type: none"> 野外活動（5年） 八木山地区防災訓練 	理科「流れる水のはたらき」 流れる水の働きと土地の変化の関係を知る	お米はみんなのたからもの 八木山の自然を調べよう 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 八木山地区防災訓練【4章5】 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし活動 たまご焼き（家族愛） どこかでだれかが見てくれる一福本清三（役割・責任）
11	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会 避難訓練（火災） 全校奉仕活動 		お米はみんなのたからもの 象の糞で野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練事前事後指導【安全P24～P28】 	<ul style="list-style-type: none"> 動物園清掃【5章3】 なかよし活動
12		社会「情報化した社会と私たちの生活」【3章3, 3章4】 情報化した社会の様子と国民生活を考える	環境について考えよう		<ul style="list-style-type: none"> なかよし活動（ロング） 冬休みの生活【安全P18】 心にうったえる音楽を目指して－梯剛之（希望・勇気・努力） くずれ落ちた段ボール箱（親切）
1			環境について考えよう	風水害から身を守る（目的意識を高める～情報を集める）	
2	<ul style="list-style-type: none"> 冬山体験（4年） 	保健「けがの防止」【4章3】 けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする	環境について考えよう	風水害から身を守る（調べる・整理する～まとめる・表現する）	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳配り（勤労・社会奉仕） 稲むらの火で命を救え（生命尊重）
3		社会「自然災害を防ぐ」【2章2, 2章3, 2章4, 2章5, 5章6】 自然災害の防止と人々の生活との関係について調べる		風水害から身を守る（報告・発表する）	<ul style="list-style-type: none"> 春休みの生活

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号065
仙台市立芦口小学校	担当者	吉田 千真
1 学校・地域の実態	➡	3・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：素直な子供が多く、学校行事や地域の行事に積極的に参加する姿が見られる。日頃から機会を捉えて指導していることもあり、避難訓練に真剣な姿勢で臨み、自助の力を高めている。共助の視点から見ると、集団で協力した防災訓練や地域の方との避難所運営などの機会はあるものの、自分にもできることはないかという視点で考えたり行動したりする力は十分とはいえない。 ・保護者：地域の防災訓練や避難訓練の際には、協力的な家庭が多い。 ・地域：学校に協力的な町内会や地域の方々が多く、運動会や防災訓練、そして日頃の安全指導など幅広く支援をいただいている。 ・東日本大震災時の地域の状況： <ul style="list-style-type: none"> 坂が多い地域のため、地滑りした場所がいくつかあった。学校は体育館を避難所として開設した。年1回地域合同防災訓練はしているものの、子供たちが実際の場面を想定したり、自分事として考えたりすることは難しくなっている。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1
<p>(自助) 各種災害に関する基礎的な知識や対処方法を知り、日頃から災害に備え、自分の命を自分で守ることができる児童</p> <p>(共助) 日頃から自分にできることを考え、互いに協力して活動し、有事の際に地域に参画できる児童</p>		
<h3>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</h3> <p>総合的な学習の時間を軸にした、地域と連携した防災教育の推進</p>		
<h3>4 児童生徒の変容</h3> <p>総合「ミニSBLになろう！」の振り返りでは、自分自身の変容を聞いた。「荒浜小学校に行ったときの自分と今の自分で、変わったことは何ですか。」すると、「関心を持つようになった」「もしもの時に自分でできることが増えた」「身近な物で、防災グッズを作れるようになった」という回答が多く聞かれた。身近なことから防災について自分事として捉えることができるようになったことは、成果と言える。</p>		
<h3>5 実践の具体</h3> <p>自分が住む地域の防災について知る…地域のSBLさんと一緒にフィールドワークを実施した。震災当時実際に避難所を開設したときの体験談や、地域の被害の状況と、そのとき活躍した防災機器の説明を聞きながら自分の住む地域を回った。震災遺構見学の流れから、自分たちの住む地域の被害や、防災設備等について知ることで、「自分事にするきっかけ」とすることができた。</p> <p>震災当時の校長先生の体験談を聴く…震災遺構の見学から、震災の恐ろしさや、被害の状況について学んだ後、次に知りたいことは何かを問うたところ、「自分の学校の様子はどうだったのか知りたい」という声が多く聞かれた。そこで、当時の校長先生にお話を伺った。地域の方や先生方、そして中学生などの支えがあって苦難を乗り越えたというお話を伺い、自分たちにできることがあることを知り、それは何か考える機会になった。</p> <p>ミニSBLとしての実践発表…もしもの時、今の自分にできることを、「衣食住」の観点で考えさせ、グループごとに実践発表を行った。お世話になった荒浜の方々とSBLさんに向けて発表し、アドバイスや称賛の言葉をもらうことで、達成感を味わわせることができた。そして、「もし災害が起きたとしても、今の自分にできることが一つ増えた」という自信を持てたことにつながったのが一番の成果であった。</p>		
<h3>6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 □ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

防災教育年間指導計画

芦口小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	・登下校指導 ・たてわり活動 ・避難経路確認		荒浜小学校見学 (校外学習)	☆歩み出す 力強く(1章②) ①	・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の 確認		
5	・集団下校訓練 ・芦ぶえプロジェクト ・戸口訪問		芦口学区の震災 当時のことを調 べる			☆立ち上が れ！ぼくらの復 興プロジェクト (2章⑤)①	
6	・たてわり活動 ・避難訓練(地震) ・芦ぶえプロジェクト	・けがの防止(体 育)	芦口学区探検 (防災マップ作り のため)				
7	・芦ぶえプロジェクト	・できるように なったかな家庭 の仕事(家庭)	・防災マップ作り ・震災当時の芦 口を知る方の話	地域の防災に ついて調べよう (校外学習・地 域の方に話を 聞く)		・夏休みの生活	
8	・登下校指導 ・芦ぶえプロジェクト						・2(3)友情・信 頼
9	・地域合同防災訓練 (避難所設営) ・たてわり活動 ・野外活動	・台風と天気の変 化(理科)	・自分ができるこ とを考え・実践す る ・まとめ,発表	・野外活動時の 災害発生の対 応☆応急手当 の方法と救急 車の呼び方(4 章⑥:体育)①	地域総合防災訓練 ② ☆いろいろな自然災 害(3章②:理科)①		・3(2)自然愛・ 環境保全
10	・芦ぶえプロジェクト	・流れる水のはたら き(理科) ☆津波のメカニズ ムと災害(3章①:理 科)①		☆災害時をくら すヒント(4章④) ①			
11	・避難訓練(業間・火災) ・たてわり活動			自分たちの取り 組みをまとめて 発表する。	・避難訓練		・3(1)生命尊重
12	・芦ぶえプロジェクト ・スチューデントシティ	・情報化した社会 とわたしたちの生 活(社会) ☆災害時の情報 手段(3章⑥:社 会)①				・冬休みの生活	
1	・登下校指導 ・芦ぶえプロジェクト ・たてわり活動				・登下校の安全		
2	・芦ぶえプロジェクト ・たてわり活動	☆心と向き合っ て(4章⑦:体育) ①				☆広がれ,つな がれみんなの 思い(5章④)①	☆希望の詩～ 「ない」～(2章 ①)①
3	・芦ぶえプロジェクト ・復興プロジェクト (震災を忘れない)	・自然災害を防ぐ (社会)			☆防災知識をチェ ックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害 年表・復興年表(6章 ③)①	☆思いをかた ちに(5章⑤)①	
		3時間	(50時間)	3時間	2時間	3時間	1時間
	合計					12時間(関連内容を除く)	

☆ 年間指導計画 (副読本活用) ・関連内容等

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 232
仙台市立折立中学校	担当者	大内 卓也
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：ほとんどの生徒は、震災時幼稚園児であり、当時の記憶があまり残っていない。折立小学校出身生徒は、震災後折立小学校校舎周辺が倒壊等で危険な状態だったため、折立中学校敷地内の仮設校舎で3年間過ごしている。そのため、仮設校舎で過ごした日々の記憶は残っているようである。 ・保護者：共働き世代が多いものの、学校行事や引き渡し訓練、防災教室への参加者が多く、協力的である。 ・地域性：学校と連携しての防災教室を毎年5月に行っており、地域との連携が取れている。また、昨年度は青葉区・折立小学校と連携して青葉区総合防災訓練を行った。 ・東日本大震災時の地域の状況：山の斜面に造られた宅地なため、震災当時は多くの斜面が崩れ、家屋の倒壊や地面のひび割れが見られた。そのため、当時の折立小学校の児童は3年間折立中学校の敷地内の仮設校舎で過ごした。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒</p> <p>(共助) 非常時だけでなく、平常時にも進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を持った生徒</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の方と触れ合う機会を設けることで、人との関わりや、地域社会にどのように貢献していくかを考えさせ、望ましい態度を育成する防災教育」 		
4 児童生徒の変容		
<p>火災による避難訓練時には、こちらで指示しなくてもハンカチを口に当てて避難したり、低い姿勢で避難したりする生徒もおり、自らの安全を確保するための知識や対応方法が身に付いてきた。また、地域の目の不自由なお年寄りの方が困っていた際に、自ら進んで道案内をしたり、休日の部活動時の登校時に、部員全員で地域のゴミ拾いをしたりするなど、進んで他の人や地域の力になろうとする心情や態度が少しずつ育まれている。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 5月22日 『防災教室』（2年 総合的な学習の時間）</p> <p>毎年5月に、避難所開設の仕方を学ぶことに重点を置いた防災学習を行っている。今年度も折立防災対策連絡会の協力をいただき、2年生を対象に実施した。</p> <p>(2) 9月21日 『小中合同防災訓練』（全学年 総合的な学習の時間）</p> <p>折立小学校と合同で実施した。「地震で折立小学校校舎が倒壊の危険があり、折立中学校に避難する。」という状況を想定し、小学校児童・教職員が折立中学校に避難した。中学生は、校庭に避難し、青葉消防署片平出張所の指導の下、消火訓練を行った。その後、体育館にて小中合同で引き渡し訓練も行った。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

防災教育年間指導計画

仙台市立折立中学校

○重点目標

- 【自助】** 平常時から、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。
【共助】 平常時から、非常時に進んで他の人や地域の人とならうとする心情や態度を育成する。

【 】:防災対応力の構成要素 ★:仙台版防災教育副読本との関連

月	特別活動・学校行事等	第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年		
		道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】	道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】	道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】
4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導 ・通学路の確認 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・避難方法と避難経路の確認 ・学校防災マニュアル確認 ・花山合宿(1年)	・いまを生きる大切さ 3- (1)	・花山合宿集団訓練	・集団訓練 (保体) ・衣生活・住生活と自立(技・家)	・よりよい自己の追求	・野外活動	・集団訓練 (保体) ・日本の自然災害(社会) ・盲導犬体験 (英語)	・目標に向かう意志 1- (2)	・修学旅行事前調査	・集団訓練 (保体)
5	・校内安全点検 ・一斉メール連絡網の確認 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・野外活動(2年) ・修学旅行(3年) ・防災教室(2年)	・家族のきずな 4- (6) ・日々の心構え 1- (1)	・花山合宿のまとめ	・衣生活・住生活と自立 (技・家) ・応急処置の方法★ (保体)	・自然への畏敬 3- (2)	・野外活動 ・防災教室(2年) ・避難所開設の仕方を学ぶ★	・エネルギー変換に関する技術 (技・家) ・日本地理(社会)	・自然への畏敬 3- (2)	・修学旅行集団訓練 (緊急時対応指導)	・月の起源を探究 (国語) ・応急処置の方法★ (保体)
6	・校内安全点検 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・避難訓練 ・市中総体時の災害発生への対応指導 ・シェイクアウト訓練	・自主的な判断 1- (3)		・世界の火山(社会)	・ともに生きる社会 4- (2)		・エネルギー変換に関する技術 (技・家) ・応急処置の方法★ (保体)	・役割の自覚 4- (4)		
7	・校内安全点検 ・合唱祭 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・夏季休業中の安全指導 ・故郷復興プロジェクト★ ・教育相談	・よりよい集団づくり 4- (4)		・雪とバイナッブル(国語) ・弁論文(国語) ・水泳「着衣泳」 ・実習「心肺蘇生法」★ (保体)	・郷土に尽くす 4- (8)		・エネルギー変換に関する技術 (技・家) ・弁論文(国語) ・水泳「着衣泳」 ・実習「心肺蘇生法」★ (保体)	・夢を追い求める心1- (4)		・コミュニケーション能力「戦争体験・広島」(英語) ・水泳「着衣泳」 ・実習「心肺蘇生法」★ (保体)
8	・校内安全点検			・衣生活・住生活と自立 (技・家)			・情報に関する技術 (技・家)			・集団社会の中で生きるわたしたち(社会)
9	・校内安全点検 ・折中祭 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・シェイクアウト訓練 ・折立地区合同防災訓練★	・好ましい世の中 4- (2)		・衣生活・住生活と自立 (技・家)	・よりよい社会の実現 4- (2)	・職場体験事前調査	・九州地方、島原の火山災害と復興(社会) ・情報に関する技術 (技・家)	・郷土を愛する心 4- (8)		・コミュニケーション能力「戦争体験・広島」(英語)

月	特別活動・学校行事等	第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年		
		道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】	道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】	道徳 【態度】	総合的な学習の時間 【技能】	教科 【知識】
10	・校内安全点検 ・安全な登下校指導 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・心とからだの健康調査 ・職場体験(2年) ・弾道ミサイル発射・着弾に備えた避難訓練	・心のあたたかさ 2- (2)		・材料加工 (技・家)	・あたたかい人間愛 2- (2)	・職場体験学習 ・避難訓練★	・九州～豪雨による土砂崩れと水害(社会) ・近畿地方～震災から防災都市へ(社会)	・生命の尊さ 3- (1)		・地方政治と自治、地域課題(社会) ・コミュニケーション能力「道案内」(英語)
11	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト★ ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・教育相談 ・避難訓練・小中合同引渡訓練	・郷土を愛する心 4- (8)		・材料加工 (技・家) ・AEDの使い方★ ・心身の機能の発達と心の健康 (保体)	・国際協力を考える 4- (10)	・職場体験のまとめ	・AEDの使い方★ ・健康と環境 ・水の利用と確保 ・環境汚染と保全 (保体)	・つながりあう社会 4- (2)		
12	・校内安全点検 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回)	・かけがえのない家 4- (6)		・材料加工 (技・家) ・道案内(英語)	・社会への奉仕 4- (5)	・職場体験発表会	・市、県を紹介する(英語) ・人類と地球と未来のために (保体)	・生命の尊さ 3- (1)		・AEDの使い方 (保体)
1	・校内安全点検 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回)	・真の国際貢献 4- (10)	・野外活動事前調査	・大地の変化★ (理科) ・材料加工 (技・家)	・国を愛する心 4- (9)		・東北地方とはどのような地方だろうか(社会) ・天気とその変化(理科) ・応急手当(保体)	・誇りある生き方 3- (3)		・共に健康に生きる社会(保体)
2	・校内安全点検 ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・子戯会	・支え合う家族 4- (6)	・野外活動事前調査	・大地の変化 (理科) ・情報に関する技術 (技・家)	・良心に恥じない生き方 1- (3)	・修学旅行事前調査	・天気とその変化 (理科) ・身近な地域の調査 (社会)	・志ある生き方 1- (4)		・自然と人間 (理科) ・資源、エネルギー問題 (理科)
3	・校内安全点検 ・卒業式 ・故郷復興プロジェクト ・朝読書で防災読本を読む★ (月1回) ・修了式	・善意や支えへの感謝2- (6)	・野外活動事前調査	・情報に関する技術 (技・家) ・体調を説明する (英語)	・他を思いやる心 2- (2)	・修学旅行事前調査	・地域の歴史 (社会)	・きまりを守る 4- (1)		・よりよい社会をめざして(社会)

仙台市立折立小学校

担当者 渡邊 健太

1 学校・地域の実態 → 1, 4

- ・児童生徒：8年前の出来事であるため、児童のほとんどが、東日本大震災当時の記憶がなく、災害時に対する危機感は低いと考えられる。また、児童の多くが防災訓練に意欲的に参加し立派な姿を見せているものの、災害で命を失うことが自分にも起こりうるかもしれないと捉えている児童は少なく、防災対応力が高いとは言えない現状にある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、引き渡し訓練や学校行事への参加率は高く、協力的な家庭が多い。一方、防災学習で家での備えについて児童に聞いた際には、防災リュック等の備えをしている家庭は少ないことが分かり、防災に対する意識の高い家庭は少ないと考えられる。
- ・地域性：地域の中に、「防災連絡協議会」が設立されており、災害時に備えた物資の準備や人的な配置が整えられている。また、昨年度青葉区総合防災訓練を行い、当協議会や中学校と連携を図った。しかし、備えが十分とは言えない部分もある。
- ・東日本大震災時の地域の状況：青葉区唯一の被災校であった本地域は、山の中腹部にあり、土砂災害の危険区域に指定されている。震災当時は、付近住宅の地盤があらこちらで崩れ、学校が危険地区となり、小学校は中学校への移転を余儀なくされた。

2 目指す児童生徒の姿 → 1, 4

- (自助) ・災害や自分の身を守る正しい知識や対応方法を身に付けている児童。「自分で守ろう
・自分で考え行動し自らの安全を確保できる児童。
- (共助) ・災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童。

スローガン

自分の命

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「地域と連携した防災教育」

4 児童生徒の変容

・登校時の訓練では、教師の目がない中でも自分で考え身を守る行動を取ることができる児童が多かった。その姿からも分かるように、児童は自分で考え行動することのできるようになったと考える。5年生の総合での防災マップ作りでは、地域の力となる姿勢も身に付けることができた。

5 実践の具体

(1) 地域性を考慮した安全・防災教育年間計画の策定

・安全教育と防災教育のつながりを意識し、全学年の学習内容を一覧として系統的にまとめた。その中で、学年間の活動のつながりも示した。学年間での活動のつながりを意識して指導にあたるとともに、児童にとっては、「4年生は3年生に説明する役割」といったように、自分たちの活動の意味や役割を意識し、活動を「自分事」として捉えさせるねらいを持たせる。

また、土砂災害警戒区域である本地域の特性を考慮し、土砂災害を想定した避難訓練の実施や避難経路の策定、地震発生時の停電を想定した訓練など、様々な訓練を実施してきた。これらの訓練も、地域性を考慮すると共に、児童がより実際の災害時を想定して訓練に望めるように考慮したものである。

(2) 震災遺構荒浜小学校の活用(5年生 総合)

・5年生の総合の学習では、防災を軸にし、防災リーフレットの作成等に取り組んでいる。その中で、折立の地域にはない、津波の被害について、震災遺構荒浜小学校の見学をした。実際に津波の被害というものがどれほどのものかを肌で感じた児童たちは、改めて災害の恐ろしさや、災害に備える重要さを感じる事ができたようだった。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用

3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合 【 地域復興 】 「折立と防災」		特 活	道 徳	
	4	放送聞き取り訓練 地震時避難訓練 地区子供会の確認 交通教室(1年)				②地震にそなえて p25 ②落ち着いた行動を P28	
5	運動会 →熱中症対策 不審者対応訓練 声かけに対する対応	【社会】 国土の気候の特色	地震・災害を関連づけて			避難訓練にむけて	6お父さんは救急救命士 (勤労, 公共の精神)
6	集団下校訓練 通学路に潜む危険 室内での過ごし方 修学旅行(6年)	【保健】 心の健康	【震災遺構荒浜小見学】				9ノンステップバス のできごと (親切, 思いやり)
7	水に潜む危険 自転車走行中の危険について(朝会で)		【防災マップづくり】 →校内で掲示, 全校で共有		②夏休みを有意義にp17		11おばあちゃんが 残したもの (生命の尊さ)
8	クリーン作戦		地震・災害を関連づけて				
9	小中合同引き渡し訓練 陸上記録会(6年)	【理科】 台風の動きと天気の変化	蕃山登山 → 地域交流				15そういうものに わたしはなりたい (よりよく生きるよろこび)
10	休憩時避難訓練 野外活動(5年)		【野外活動】 オーエンス泉が岳自然ふれあい館 安全に登山, キャンプ等を行う			①野外活動の 目標	
11	学習発表会 火災時避難訓練 暖房機器などに潜む危険	【理科】P24 わたしたちのくらしと災害	自然災害との関わりを意識させて				21わたしのボラン ティア体験 (勤労, 公共の精神)
12	防災教育(授業参観で一斉実施) 室内での過ごし方	【社会】 ・情報化した社会とわたしたちの生活			②冬休みの過ごし方p18		
1	凍結路面での注意		【自主研修】		健康な生活と食事 p27		28親から子へ, そして孫へと (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度)
2	子ども体験プラザ(6年)	【保健】 ・けがの防止(救急法)	復興をめざす地域の一人として, 今後の自分について考える				33一本松は語った (感動, 畏敬の念) ※防災教育対応
3	東日本大震災復興プロジェクト	【社会】 ・わたしたちの生活と環境 P22・23・34・35			②震災を振り返ろう P54		35パトンをつなげ (よりよい学校生活, 集団生活の充実)

赤字は副読本のページを表します。

仙台市立栗生小学校

担当者 阿部 友耶

1 学校・地域の実態 → 1

- ・児童生徒：震災から8年が過ぎ、5年生では、ほとんどの児童が震災当時のことをあまり覚えていない。また、震災自体については、学校、テレビなどから地震等の情報は得ているものの、地域の実態から津波について理解をしている児童は少ない。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、引き渡し訓練への参加者は多く、学校の教育活動に対して協力的である。一方で町内会や子供会などの行事に参加しない家庭も出てきている。
- ・地域性：バイパスやJR線路が通り、交通網は整備されている。比較的新しい住宅地で地元に昔から住む人と新設されたマンション等に住む人が共生している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：東日本大震災時の地域の状況：地域的には、地震による被害が主で、土砂崩れや一部で家屋の倒壊も見られた。避難所を利用する住民も多く、ライフラインが止まったことで、食料や水等を求め長蛇の列ができた。ただ、沿岸地区と違い、津波被害が全くなかったため、住民の津波被害に対する意識は低い。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・3

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に落ち着いて判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童。
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となることができる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「震災の教訓と記憶の風化の防止のために、防災・減災の正しい知識と災害時の対応力を高める防災教育」

4 児童生徒の変容

- (自助) 出前授業や荒浜小学校見学後の避難訓練の様子から、災害を自分事ととらえ、冷静に判断し、行動できる児童が多くなっている。
- (共助) 学習発表会を経て、これまで自分たちが守られてきたことを改めて実感し、今度は自分たちが他の人の力になろうとする意識が高まっていた。

5 実践の具体

- (1) 6月『フリー参観・引き渡し訓練』（総合的な学習の時間）
 - ・「第4章2 災害から身を守るために」（仙台版防災教育副読本）活用。
 - ・5学年は、家や下校途中など、場面ごとにクロスロードを使ったシミュレーション形式で学習。（5学年）
- (2) 7月『アドベンチャーキャンプ』（お父さん委員会主催）
 - ・防災に関するワークショップ。
 - ・自分たちで段ボールハウスを作り体育館で宿泊。
- (3) 8月『減災教育出前授業』（5学年・理科）
 - ・東北大学減災教育「結」プロジェクト主催のワークショップ
 - ・災害のメカニズムや災害時の行動についてグループワーク形式で学習。
- (4) 9月『震災遺構荒浜小学校見学』（5学年・総合的な学習の時間）
 - ・荒浜地区の被害の大きさや、津波の恐ろしさ、当時の思いや防災の取組について知識を深めた。
- (5) 11月『学習発表会』（5学年・学校行事）
 - ・防災学習で学んだことや考えたことを保護者の当時の思いを交えて発表。
- (6) 11月『避難訓練・防災給食』（学校行事・食育）
 - ・火災を想定した避難訓練。
 - ・防災給食では、お椀にサランラップを敷いてご飯を食べたり、乾パンを食べたりした。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

目指す児童の姿(高学年)→・災害発生時にリーダーとして、家族や友達、地域の方と協力して活動することができる。(態度)
 ・災害発生時に危険を予測し、自分の命を守るために適切な行動を取ることができる。(技能)

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活		道 徳
	4	・交通安全教室 ・児童宅確認	家庭「はじめて みようクッキング」			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す 力強く(1章②)
5		社会「国土の地形の 特色と人々の暮らし」	・水害に対する 水田の役割	☆「復興への第 一步」(2章②)	・野外活動時の 災害発生への 対応		「お父さんは救 急救命士」(勤 労、公共の精 神)
6	・野外活動 ・避難訓練(地震想定) ・フリー参観(防災) ・引渡訓練	国語「新聞記事 を読み比べよう」		防災の課題を 決めて調べよう ☆「災害から身 を守るために」 (4章②)	・避難訓練事前 事後指導 ☆災害時をく らすヒント(4章④)		「おばあちゃん が残したもの」 (生命尊重)
7	・アドベンチャーキャン プ	・できるようになっ たかな家庭の仕 事(家庭)			☆「大きな災害 と人間の心の 動き」(3章④)	くりのみ祭りを成功させよう ・夏休みの生活	☆希望の詩～ 「ない」～(2章 ①)
8	・減災出前授業	☆津波のメカニ ズムと災害(3章 ①:理科)				・地域行事への 参加	
9	・震災遺構荒浜小学校 見学	・着衣水泳(体 育) ・台風と天気の変 化(理科)					☆震災を語りつ ぐ(1章③)
10		・流れる水のは たらき(理科) ☆いろいろな自然 災害(3章②: 理科)					
11	・学習発表会 ・故郷復興プロジェクト ・防災給食 ・避難訓練(火災想定)	☆災害時の情 報手段(3章④: 社会)	・米飯の炊飯		・避難訓練事前 事後指導	☆立ち上が れ！ぼくらの復 興プロジェクト (2章⑤)	「わたしのボラ ンティア体験」 (勤労・社会奉 仕)
12		・情報を生かす わたしたち(社 会)	・米作り感謝の 会(地域の方に 支えられている ことを感じる)			・冬休みの生活	
1							「コースチャぼう やを救え」 (生命尊重)
2						☆広がれ、つな がれ、みんなの 思い(5章④)	
3					☆仙台の自然 災害年表・復興 年表(6章③)	・春休みの生活 ☆防災知識を チェックしよう (6章①)	「一本松は語っ た」(感動、畏敬 の念)

☆ 仙台版防災教育副読本活用

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 2 3 3
仙台市立幸町中学校	担当者	山田 哲也
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒：震災発生時、生徒は未就学児であり、多くの生徒は震災当時のことをあまり覚えていない。大きな揺れがあったことや停電したこと、しばらく断水したことなどの記憶はあるものの、幸町中学校周辺でどのような被害があり、自分たちがどのような行動をしたのかなどの記憶は年々薄れてきている。これまでの避難訓練などを通じて培われた自助の意識は高いものの、共助への理解は課題が見られる。 ・ 保護者：共働き世帯が多いが、学校行事等への参加者・見学者は多く、協力的な家庭が多い。地元出身者だけでなく他市町村からの転入者も多いが、町内会や子供会などの行事に参加する家庭が多い。 ・ 地域性：学区は青葉区と宮城野区が混在している。道路は狭く、一方通行区間が多い。また、開校以前からある古い建物も多くある反面、新築のマンション等も多い。防災に関する町内会の取組は、すすんでいる地域とすすんでいない地域があり、生徒が参加しての防災訓練が行われている地域（町内会）もある。 ・ 東日本大震災時の地域の状況：本校周辺の地域は、沿岸部から離れているため、津波による大きな被害はなかった。停電や断水はあったものの、家屋の倒壊は見られなかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対処法を身に付け、自らの安全を確保できる力を育成する。 (共助) 日頃から人々と関わり、非常時に進んで他の人や地域のために行動する姿勢を育成する。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災副読本を活用した防災教育 ・ 総合的な学習の時間を中心とした教科等横断的な防災教育 ・ 地域と連携した防災教育 		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自助」「共助」「公助」について学び、「共助」についての意識の高まりが見られる。 		
5 実践の具体		
<p>(1) 仙台版防災教育副読本を活用した授業（6月21日（金）6校時 避難訓練後実施） 1 学年（自助）：自分を守る（第4章2） 家庭でできる災害への備え（第4章4） 2・3 学年（共助）：絆を力に一步步（第2章1） 私たちも立ち上がる（第2章3）</p> <p>(2) 総合的な学習の時間を中心とした教科等横断的な防災教育 総 合：「防災ゲーム（クロスロード）」の実施（全学年） 社会科：「日本の様々な自然災害」「自然災害に対する備え」（中学2年 地理分野） 理 科：「地震が起こるしくみ」「地震と災害」（中学1年）</p> <p>(3) 宮城県消防鶴谷出張所の方を招いての避難訓練（火災想定）を実施。（11月11日（月）） 本校の避難訓練を見ていただき、講評をいただく。また東日本大震災でのご自身の経験や「自助」「共助」「公助」についてもお話をいただく。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

令和元年度 幸町中学校 防災教育年間計画 2学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活	道徳	
4	・安全点検 ・交通安全週間 ・登下校指導 ・避難経路の確認 ・父母教師会総会	・集団行動(保体)		・校外学習事前指導	・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		
5	・安全点検 ・修学旅行(3年) ・野外活動(2年) ・校外学習(1年)			・校外学習集団行動訓練 ・酒田市内自主研修(ハザードマップの見方)	・連休の過ごし方		
6	・安全点検 ・仙台市中総体 ・避難訓練(地震) ・中間考査	・日本の様々な自然災害 ・自然災害に対する備え(社会)			・避難訓練(地震想定) ・自分を守る【副】 ・絆を力に一歩ずつ【副】		
7	・安全点検 ・学校開放週間 ・合唱コンクール ・美化活動 ・夏期休業				・夏休みの過ごし方	・震災復興プロジェクト(折り鶴作成)	
8	・安全点検 ・夏期休業 ・家庭訪問&3年三者面談 ・実力考査(3年)						
9	・安全点検 ・期末考査(1学期) ・学習発表会	・自然とともにある九州の人々の生活(社会)					「田老の生徒が伝えたもの」
10	・安全点検 ・仙台市新人大会 ・収穫祭(1年) ・1学期終業式 ・2学期始業式 ・体育祭				・秋休みの過ごし方		
11	・安全点検 ・中間考査 ・避難訓練(火災) ・教育相談 ・職場体験			・職場体験事前指導	・避難訓練(火災想定)		「今度は私の番だ」
12	・安全点検 ・三者面談(3年) ・授業参観 ・冬季休業			・幸町学区防災訓練参加	・冬休みの過ごし方		
1	・安全点検 ・私立入試						
2	・安全点検 ・期末考査 ・予餞会						
3	・安全点検 ・公立高校入試 ・卒業式 ・修了式 ・離任式				・春休みの過ごし方		「震災の中で」

仙台市立幸町小学校

担当者 佐々木 真

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：震災について、身近にとらえている児童は少ない。年4回の避難訓練の他に、月1程度「緊急放送を聞く訓練」を実施しており、緊急放送の聞き方はよく身に付いてきている。
- ・保護者：引き渡し訓練では、低学年児童の保護者は参加率が高いが、高学年になるにつれて参加率が低くなるなど、マンネリ化の傾向にある。震災で特に大きな被害を受けた地域ではないので、防災意識が高いとは言えない。
- ・地域性：連合町内会で、炊き出し・安否確認などの防災訓練を実施したことがあるが、小学校との合同訓練は実施したことはない。学校としては、地域との合同防災訓練等実施を強く望んでいる。
- ・東日本大震災時の地域の状況：本校は市街地にあるが、特別に大きな被害を受けたところはなかった。マンション・団地などの住民は、学校を避難所として利用することが多かった。避難所運営は、主に連合町内会が中心となっていた。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- (自助) 災害に対する正しい知識を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 非常時に進んで人や地域のために力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

体験的な活動を取り入れ、仙台市防災副読本を積極的に活用した防災教育の推進

4 児童生徒の変容

- ・定期的な避難・放送を聞く訓練の実施や仙台市防災副読本を使つての学習を通して防災への意識が高まった。
- ・震災遺構見学や体験的な学習を通して、震災について身近にとらえられるようになってきた。

5 実践の具体 5年生の授業実践より

(1) 「震災遺構荒浜小学校見学」(総合的な学習の時間)

震災遺構等の見学を通して、震災の被害や人々の思いに触れることで震災について理解を深め、語り継いでいこうとする態度を育てた。初めて訪れる児童がほとんどで、説明する人の話を真剣に聞いて、学習する姿が見られた。見学後の感想では、「震災についてあまり知らなかったので、もっと調べたい。」等の感想が多くあった。



(2) 「東北大学減災教育『絆』プロジェクトの出前授業(総合的な学習の時間)

前半は、講師の方が映像教材を用いながら災害(津波)のメカニズムについての授業を行った。後半は、減災教育ツールを使用してのグループワークを行った。災害時には、どのような行動をとることが必要か、そのためにはどのような備えが必要かについて、グループワークを通して考えることができた。



(3) 「けがの手当」(体育:保健)

応急手当の仕方について、けがをしたときどうすればよいか体験活動を通して学習した。身近にある物を用意して、応急手当に使える物があるか児童に考えさせた。腕を骨折した時など、新聞紙を厚く巻いて添え木の代わりにしたり買い物袋を包帯代わりにして固定したりするなど、臨機応変にけがの手当ができるための学習を行った。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第5学年 防災教育 年間指導計画

仙台市立幸町小学校

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度		
学 習 内 容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事	教 科	総 合	特 活	道 徳	
4	朝の交通安全指導 通学路の安全確認 避難経路の確認 引き渡しカード記入 家庭訪問	天気の変化（理） 世界の中の国土（社）	<p>自然にふれ、環境について考えよう —泉ヶ岳の自然—</p>	1章②歩み出す力強く 安全な登下校	4 遠足の子どもたち （善悪の判断, 自律, 自由と責任）	
5	緊急メールテスト 避難訓練（不審者） 集団下校訓練 野外活動	天気の変化（理） はじめてみようクッキング（家） 国土の地形の特色と人々の暮らし（社）		<p>語り継ごう 東日本大震災 ・荒浜小学校震災遺構見学 ・東北大学減災教育プロジェクト</p>	4章⑦応急手当の方法と救急車の呼び方	5 駅前広場はだれのもの（規則の尊重）
6	緊急放送を聞く訓練 避難訓練（地震） 引き渡し訓練				4章⑥災害時を暮らすヒント（行）	9 ノンステップバスでのできごと（親切, 思いやり）
7	救命救急法講習会 四つ葉まつり	心の健康（体）	<p>環境問題について考えよう</p>	救急法・夏休みのくらし方	2章①希望の時～「ない」～ 11 おばあちゃんが残したもの（生命の尊さ）	
8	朝の交通安全指導	台風と天気の変化・理				
9	緊急放送を聞く訓練 避難訓練（地震）	3章③いろいろな自然災害（理）			校庭で起こる事故の防止	14 これって「けんり」？これって「ぎむ」？（規則の尊重）
10		4章③心と向き合っ て（体） 元気の毎日と食べ物 （家）			秋休みのくらし方	21 私のボランティア体験（勤労, 公共の精神）
11	避難訓練（火災）	流れる水のはたらき（理） 2章④立ち上がれ！ ぼくらの復興プロジェクト	<p>スチューデントシティ —自分づくり教育—</p>		23 心のレシーブ（友情, 信頼） 24 コースチャボウヤを救え（生命の尊さ）	
12	スチューデントシティ	3章④災害時の情報手段（社）			冬休みのくらし方	26 ぐずれ落ちた段ボール箱（親切, 思いやり）
1	朝の交通安全指導	けがの防止（体）	<p>お茶について知らせよう —伝統文化教育—</p>	5章⑤Heroes2011 Japan	30 クマのあたりまえ（生命の尊さ）	
2		環境を守るわたしたち（社） 寒い季節を快適に（家）				32 友の命（友情, 信頼）
3	ふるさと復興プロジェクト	自然災害を防ぐ（社）			春休みの過ごし方（学） 6章①防災知識をチェックしよう（学） 6章③仙台の自然災害年表・復興年表（学）	33 一本松は語った（感動, 畏敬の念）

※下線部は新防災副読本の活用例

仙台市立幸町南小学校

担当者 鈴木 基誉

1 学校・地域の実態 → 1・2・3・4

- ・児童生徒： 防災に関するカリキュラムが定まらず、系統立った指導ができないでいた状況から、少しずつ整備を始めている段階。防災に対する意識はあまり育ってはいない。
- ・保護者： 東日本大震災時は比較的被害の軽い地域だったこともあり、危機意識には大きな差がある。商業地域ということもあり共働きの家庭も多く、地区の防災訓練等の参加率も低い。
- ・地域性： 各町内会など地区の世話人も高齢化が進んでいる地域で、避難所の運営等にも不安がある地域。区役所にも入ってもらいながら、防災マニュアルを整備したところではあるが、一部の役員のみで周知はされていない。
- ・東日本大震災時の地域の状況： 津波等の二次災害はない。地震でマンションの連絡通路に被害があった旨の報告はあったが、その他大きな被害は聞いていない。電気・ガス等のライフラインも早々に復旧したと聞いている。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・3

- ・下学年： 自助の初期段階として、災害を知ることや災害が起きたときの最低限自分の身を守る行動を自分で判断できる児童。
- ・中学年： 自助の目的と共助の大切さを学ぶ。また地域によって起こる災害の種類や対処の違いを知り、自助や共助の適切な行動を判断できる児童。
- ・高学年： 共助の際に自分ができる役割について考え、避難所運営や地域の公助に対して自分ができるところを判断・実行できる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

防災に関するカリキュラムの整備の遅れから、高学年に行くほど、学習の積み重ねが足りない状況が起きている。総合的な学習の時間のみならず、各教科領域・行事等を横断的に考え、スパイラル的に学習や意識の高まりを目指せるように工夫・改良を重ねている。地域の防災を軸に、異学年交流等で経年の積み重ねができるような指導計画を意識している。

4 児童生徒の変容

今年度からの取組なので、変容の途中ではあるが、児童の地域への意識、防災の基礎的な知識など、高い学習効果が見られている。また、地域との関わりを含めた取組については、児童の変容に直接的な影響はないが、地域の活性や保護者への啓発の面で大きな効果を上げ、強いては今年度の児童の意識向上につながっているものと考えている。

5 実践の具体

- ① 地域的課題への対策指導
- ② 速やかな確認・判断に基づく避難訓練
- ③ マンション等での居住児童数の把握
- ④ 学区外からの通学児童が多いことへの対応
- ⑤ 地域の高齢化による避難所運営に対する不安解消策
- ⑥ 共働きや母子父子家庭など、防災への意識が低くなりがちな家庭への啓発

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

平成31年度防災教育一覧表 幸町南小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4月	・交通安全教室【学活】	・学校の約束【学活】 ・交通安全教室【学活】	・町探検【社会】 ・避難の仕方を考えよう	・避難の仕方を考えよう	・避難の仕方を考えよう	・避難の仕方を考えよう ・うちら“ネコの手”ボランティア【道徳】
5月	・きをつけてね【道徳】 ・安全な登下校【学活】	・どきどきわくわくまちなんげん【生活】	集団下校顔合わせ会／不審者対応訓練			
6月	・みんなのでつがくろをあるこ う【生活】 ・地震から自分を守ろう【学 活】	・ひがいをうけた学校・地域 【学活】 ・防災特別授業(防災ダン ス)	・町探検【社会】 ・避難の仕方を考えよう ・地震について知ろう ・防災特別授業(防災工作)	・防災会議を開こう ・防災特別授業(防災工作)	・地震について知ろう ・防災特別授業(防災双六)	・震災遺構荒浜小学校見学 ・防災特別授業(防災双六) ・土石流の中で救われた命 【道徳】
7月	・みんなのこうえんであそぼ う【生活】 ・着衣泳【体育】	・つなみについて知ろう【学 活】	・自分で決める【学活】	・安全な施設		・防災に関する意識マップ グ
8・9 月	・交通安全教室【学活】	・わたしたちにできること【学 活】 ・たからものをしようかいしよ う【国語】	・雨、風、雷について知ろう		・震災時を暮らすヒント ・地区の安全(防災マップ)	・共助を考える ・避難所生活を考える
10月			・ふるさとを元気に自分たち でできること		・復興プロジェクト	・大きな災害と心の動き
11月	故郷復興プロジェクト／火災想定避難訓練					
12月		・見つめようわたしの心【学 活】				・チャレンジ！防災モニター
1月	・ふゆのこうえんにいこう【生 活】	・きぼうの光【学活】			・防災次の情報手段 ・地区防災マップを伝えよう	・地震に対する先人の知恵 ・私の考える「防災」 ・災害に備える
2月		・いま、ほくにごできること【道 徳】	・たくさんの応援 ・伝えよう私たちの言葉で ・おじいちゃん、おばあちゃ ん、見ていてね【道徳】	・東日本大震災からの復興 ・つながる～世界の国々と ・ポロロといっしょ【道徳】	・避難の仕方を考えよう ・一本松は語った【道徳】	・未来へつなぐ ・小さな連絡船「ひまわり」 【道徳】
3月		・ぼうさい知しきをチェックし よう【学活】	・防災知識をチェックしよう	・つながる世界の人々	・防災知識をチェックしよう	

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 207
仙台市立東仙台中学校	担当者	吉川 征吾
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：震災当時、本校生徒の多くは幼稚園や保育所に在籍していた。新田小学校区の地域合同防災訓練に毎年中学校からはボランティアを募り参加している。今年度は参加者が91名にも上り、感心の高さがうかがえる。しかし、避難訓練などの全校生徒の様子からは、まだまだ防災意識の低い生徒も多いように思われ、課題であると感じている。 ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、地域での名簿作成に賛同せず（賛同できず）、町内会や子供会などの行事に参加しない（参加できない）家庭もあり、地区ごとの集会等の際に配慮を必要とする家庭も少なからず存在する。 ・地域性：各小学校区で地域合同の防災訓練が実施されている。将来は三つの避難所で合同日程での総合防災訓練実施を目指している。 ・東日本大震災時の地域の状況：震災当時は、地震による被害が主で、一部で家屋の倒壊も見られた。避難所を利用する住民もあり、ライフラインが止まったことで、食料や水等を求め長蛇の列ができた。避難所運営は、町内会と学校が中心となり運営した。その際、中学生ボランティアが積極的に活動した。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	3・4
<p>（自助）災害に関する正しい知識や適切な対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成</p> <p>（共助）災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒の育成</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント 体験的な活動、地域連携、ボランティア、学区周辺地域のハザードマップの活用		
4 児童生徒の変容 昨年、台風19号の被害により学区内の一部地域で冠水や床上浸水等の被害があった。事前に、地域の洪水・土砂災害ハザードマップを用いて授業を実践した中での被災となった。また、地域合同防災訓練に毎年多くの生徒がボランティアとして参加している。3学年の道徳で実施した『過ごしやすい避難所を考える』では、その成果が発揮され、具体的な意見が多くあげられており、生徒たちの関心の高さがうかがえた。		
5 実践の具体 （1）『地域合同防災訓練への参加』（全学年 ボランティア参加生徒） 6月に、新田地区総合防災訓練にボランティアを募り参加した。生徒たちがいくつかのグループにわかかれ、仮設トイレの組立、避難物資の運搬、炊き出し訓練への参加など、臨機応変に様々な活動に参加した。地域にお住まいのSBL（仙台市地域防災リーダー）の方が中心になり、地域の方と交流を深めながら避難所の仕組みについて考えさせることができた。 （2）『日本の様々な自然災害』（2学年 社会） 日本で起きている様々な自然災害について学習し、災害への対応について考えていく。近年、東仙台中学校区で実際にあった大きな被害の一つとして、大雨による道路の浸水があった。そういった、自分の地域で起こりうる災害についてハザードマップを基に考えさせる授業を展開した。 （3）『過ごしやすい避難所を考える』（3学年 道徳） 「もし体育館が避難所となった場合」どのように対処すれば過ごしやすい避難所とできるかについて考え、話し合う授業を展開した。様々な年齢の方や性別等を配慮した避難所を考えさせることができた。		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※ 1, 2の <input type="checkbox"/> の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

仙台市立東仙台中学校 防災教育年間計画（第2学年）

	防災対応力の構成要素	知 識	技 能	態 度	
	学習内容	防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	特別の教科 道徳
4	・安全な登下校指導 ・避難経路の確認	集団行動（保体） 日本の様々な自然 災害（社会）		避難経路の確認	
5	・地区委員会 ・野外活動		野外活動事前指導	連休中の過ごし方 地区委員会	「住みよい社会に」 C(12)社会参画, 公共 の精神
6	・避難訓練（地震） ・地区総合防災訓練	九州地方の自然環 境（社会）	地域の一員として （総合）	自分を守る・一人 一人が災害に備え る（副読本）	
7	・合唱祭 ・家庭訪問	食生活と自立（家 庭）		夏期休業中の安全 指導	
8		食生活と自立（家 庭）			「祭りの夜」 C(16)郷土の伝統と 文化の尊重, 郷土 を愛する態度
9	・文化祭	近畿地方（社会） 食生活と自立（家 庭）			
10	・継走祭 ・避難訓練（火災）	天気とその変化（理 科）	家庭のできる災害 への備え（副読本）	秋季休業中の安全 指導 避難訓練 初期消火訓練 応急担架訓練等	「田老の生徒が伝え たもの」 A(2)節度, 節制
11	・職場体験学習 ・復興プロジェクト 小中合同あいさつ運動		職場体験学習事前 指導		
12				冬期休業中の安全 指導	
1		障害の防止（保体）			
2		心肺蘇生の方法と AED（保体） 東北地方（社会）			
3	・復興プロジェクト			防災知識をチェッ クしよう（副読本）	「震災の中で」 C(13)勤労

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号027
仙台市立東仙台小学校	担当者	鈴木 健一
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：震災から8年が過ぎ、震災当時のことを覚えている児童は少ないが、震災で両親を亡くしたり、他地域で被災し本校学区に引っ越してきたりしている児童もいる。震災以降、防災リュックを用意する児童が増えるなどの変容は見られるが、意識の高まりはあまり感じられない。 ・保護者：避難所は「学校」という程度の認識で止まっている家庭が多く、保護者不在時に災害が起きたときにどのように行動するかを家庭で話し合うなどの防災意識は決して高くはない。 ・地域性：学校と連携した防災訓練を昨年度初めて実施したが、内容は現実を見据えた防災対応力を育成するものにはなっていなかった。しかし、これから本格的に取り組もうという意識は感じる。 ・東日本大震災時の地域の状況：地震発生後すぐに避難してくる人が現れ、午後7時過ぎには、体育館がいっぱいになる状況であった。しかし、教室等の開放までの必要はなく、体育館のみの避難所運営で済んだ。数日かけて学校主体の運営から町内会主導の運営へと移行することができた。電気やガスはもとより、飲料水の確保も困難な地域であった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・4
<p>(自助) 自ら危険を予測し、自らの命を守るために主体的に行動できる児童</p> <p>(共助) 進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<p>「実際の災害発生をより具体的に想定した防災教育」</p> <p>「体験活動を通じた防災教育」</p> <p>「地域や外部の人材を積極的に活用した防災教育」</p>		
4 児童生徒の変容		
<p>災害や災害発生時の対応について、自分事として捉えることができるようになってきた。また、様々な体験活動を通して、「自分の身を守るためだけでなく、だれかのためにできることが自分にもある」という感覚も持つことができた。</p>		
5 実践の具体		
(1) 『仙台発そなえゲーム (小学校版)』 (4年生 社会)		
<p>6月にNPO法人FOR YOU ニコニコの家の方々をゲストティーチャーに迎え、災害に対する備えについて、保護者を交えてのそなえゲームを取り入れた授業を行った。導入では、東日本大震災発生時の写真や、水やおにぎりをもたらすための行列の写真を提示し、事前の備えの必要性を感じさせることができた。体験型のゲームを通して、保護者とともに「自助・共助」について学びを深めることができた。</p>		
(2) 『震災遺構荒浜小学校見学』 (4年生 総合的な学習の時間)		
<p>7月に震災遺構荒浜小学校の見学学習を実施した。旧荒浜小学校での説明や見学を通して今回の津波の被害状況や恐ろしさを十分に感じる事ができた。また、深沼海岸までの散策を通して、基礎部分しか残されていない住宅地跡の様子を見ることで、そこに人々の生活があったことを理解し、その人たちの思いについて考えることができた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 □ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

防災教育年間計画 4年

東仙台小学校

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	防災教育関連行事等	教科等	総合	道徳	特活		
4	通学路の安全確認 学校連絡網作成 避難訓練（行動の仕方等） 交通安全教室 安全防犯登下校指導					(学)東日本大震災発生(11・12)	
5	不審者侵入避難訓練 防犯・子どもを守ろうデー					(行)復興への道は続く(防16)	
6	安全な自転車乗り方練習 避難訓練（授業中：地震）	(社)仙台発そなえゲーム（小学校版）				(行)避難訓練 災害が起きたら(防30)	
7	防犯・子どもを守ろうデー 夏休み生活指導 危険個所点検		震災遺構荒浜 小学校見学	一番大切なことは(防20)			
8	安全防犯登下校指導						
9	安全防犯登下校指導 防犯・子どもを守ろうデー 避難訓練（休み時間：地震）	(理)地震と津波のメカニズムと災害(防22)					
10	安全防犯登下校指導					(行)避難訓練 (学)災害から身を守るために(防32)	
11	防犯・子どもを守ろうデー 避難訓練（授業中：火災）					(学)取り組もうボランティア活動(防50)	
12	防犯・子どもを守ろうデー 集団下校訓練（PTA協力） 冬休み生活指導	(体)応急手当と救急車の呼び方(防34)					
1	安全防犯登下校指導 防犯・子どもを守ろうデー				人々をつなげる活動(防48)		
2	防犯・子どもを守ろうデー						
3	防犯・子どもを守ろうデー 春休み生活指導 復興プロジェクト					(学)防災知識をチェックしよう。(防58) 仙台自然災害年表(防58)	

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 040
仙台市立新田小学校	担当者	佐藤 淳一
1 学校・地域の実態	➡	3・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：東日本大震災では、津波の被害がなく、防災意識（避難や備え等）が沿岸部の地域と比べると低い。地域合同防災訓練で防災の授業や防災体験を行っているが、日常生活と関連させて考える児童は少ないように感じられる。そのため震災の記憶や伝承の風化が懸念される。 ・保護者：教育活動への理解があり、協力的な保護者が多い。授業参観では、ほとんどの保護者が訪れる。その一方で、学級懇談会や引き渡し訓練への不参加が増加傾向にある。 ・地域性：かつては田園地帯だった学校の東側にはマンションが建ち並び、大雨時は、道路や住宅が冠水する場所が見られる。また、南部の梅田川の氾濫の恐れもある。防災に関する意識が高く、毎年1回、約3,500人が参加しての地域合同防災訓練を実施している。 ・東日本大震災時の地域の状況：津波の被害は全くなかったが、液状化による道路の隆起や陥没が多く見られ、しばらく封鎖される場所があった。電気、水道、ガスが復旧するまで数日かかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・3・4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識を身に付け、非常時に自らの命を守るために、日頃から安全を意識して生活できる児童。</p> <p>(共助) 仲間や地域のために進んで行動し、共に助け合える児童。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・震災の教訓を生かし、地域と連携した防災教育 ・地域の特性を知り、適切に行動できる防災教育 		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・震災や防災を現実味があるものとして捉え、自発的に学ぼうとする姿が多く見られるようになった。 ・地域の特性を知ると共に災害時に地域の中で自分ができることは何かを考えることができた。 ・災害を想定し、実際にどのように行動するか具体的に考えることで、防災意識が高まった。 		
5 実践の具体		
<p>(1) 『未来に伝えよう3.11～荒浜小学校から学ぼう』（4学年 総合的な学習の時間） 『地震からくらしを守る』（4学年 社会科）</p> <p>社会科で地震が発生した時の社会の動きや自分達ができることについて学んだ上で、荒浜小学校を見学した。また、当時の荒浜小学校の教員だった方をゲストティーチャーとして招いて話をしてもらった。そして、各クラス4グループに分け、荒浜小見学で学んだことと地震や津波から身を守るために大切なことについて調べたことをまとめ、地域合同防災訓練で発表をした。震災を語り継ぐことの大切さに気付き、学んだことをこれからの生活に生かそうとする意識を持つことができた。</p> <p>(2) 『町の歴史に触れよう』（6学年 総合的な学習の時間）</p> <p>修学旅行の自主研修中に震度5程度の地震が起きたらどうするかについて話し合った。それぞれのグループが立てた予定表をもとに、バスや徒歩での移動中、建物の中で体験学習中にどのような行動を取り、どのように避難するのかについて確かめ合った。</p> <p>(3) 朝の防災安全学習</p> <p>毎月、安全点検日（各月の1日）の朝の時間（15分程度）に、『3.11から未来へ』や『わたしたちの安全』などを使い、防災や安全に関する指導を行っている。地域で起こりやすい災害や季節によって特に注意すべきことなどについて理解し、防災安全に対する意識化につながっている。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連事項等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
4	通学指導 自転車教室 学区内危険箇所の 点検（教職員） 避難訓練①②③④ 引き渡し訓練①	火事からくらしを守る （社会）				東日本大震災発生 （副読本）	
5	避難訓練⑤	運動会集団行動 （体育） 天気による1日の気温の変化 （理科）					一番大切なことは （副読本）
6	水難救助講習(教職員) 地域防災訓練 引き渡し訓練②	事故や事件からくらしを守る(社会)	取り組もう！ボランティア活動 （副読本）	アレマ隊出動！	グラッときたら		
7	学区内危険箇所の点検（教職員） 避難訓練⑦	水はどこから （社会）				震災復興の折り鶴を作ろう	
8	通学指導	地震のメカニズムを知ろう （理科:副読本）					
9	避難訓練⑧		地震を乗り越えようとした先人の知恵 （副読本）		災害に備える（副読本）		
10	避難訓練⑨				災害から身を守るために（副読本）		パンダを救え
11					おそろしい火事		
12	学区内危険箇所の点検（教職員） 集団下校	応急手当の方法と救急車の呼び方 （体育:副読本）	二分の一成人式（学年PTA行事）		救命入門コース		
1	避難マニュアルの確認						お母さん、泣かないで
2	1年間の防災教育の評価 次年度防災教育計画作成						
3					防災知識をチェックしよう（副読本）	震災を乗り越えて（副読本）	

仙台市立五橋中学校

担当者 菅澤 英樹

1 学校・地域の実態 → 1・3

- ・児童生徒：震災に関する直接的体験や記憶が希薄ではあるが、資料や継続的な学習によって、危機意識は高く持っている。今年度は風水害によって何度も避難所が開設され、その都度授業などで話題にする機会があった。特に関東での集合住宅への浸水被害は身近なものであり、ハザードマップへの関心も高まった。
- ・保護者：ハブとなる集団ごとに取り組みの温度差があるように見えるが、生徒が主体となって行動することで巻き込んでいくことができると思われる。
- ・地域性：町内会を主体とした伝統的なつながりを有した地区は防災訓練などの行事への参加も盛んであるが、高層マンションなどの集合住宅については取り組みが見えづらい。
- ・東日本大震災時の地域の状況…建物被害は他の地域と大差ないものの、仙台駅に近いことから、避難所に集まる人々の構成が、地域住民より帰宅困難者など地域とのつながりのない人の比率が高く、他の地域とは異なる状況が発生していた。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・3

(自助) 学校や自分の住む地域、建物の特性を理解して、起こり得る状況に備えるスキルを向上させ、地域の中で頼られる存在としての生徒
 (共助) 学校をハブとして、一人ひとりが地域の中で大きな力となることのできる貢献できる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

学区の特殊性を踏まえた防災教育

4 児童生徒の変容

生徒一人ひとりが災害時のノウハウを身につけたり、地域の特性を学んだりすることにより、自分の住む地区、建物で自分が役に立つ場面があることに気付けるようになった。

5 実践の具体

(1) 避難所運営訓練への参加

青葉区総合防災訓練と合同で、避難所運営訓練を行った。生徒一人ひとりのスキルアップはもちろん、地域の人との交流を通して、いざというときに頼られる存在であることを自覚することができた。たくさんの人々が関わっていることを体験し、自分から進んで役割をこなす生徒が多数出てきた。



(2) 都市型洪水や台風に備える (2 学年理科)

台風接近時の学校の様子、幹線道路の浸水の様子などを通して、ハザードマップの有用性を確認。「せんだい減災コンパス」「仙台防災タウンページ」も合わせて使用。

(3) 講演会の実施 (総合的な学習の時間・全学年)

東日本大震災当時、避難所の運営に携わった方をお迎えして、講演会を実施。当時の避難所の様子、避難所を運営する際の中学生の活動の様子などをお話いただき、中学生の力がいかに頼りにされていたのか、これからも中学生が期待されている点などを強く印象づけていただいた。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災教育年間指導計画 第2学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	教科・領域 関連行事	教科	総合	特活	道徳
4				☆復興に駆ける(1章②) ☆自分を守る(4章②) ・避難カードの記入について	社会や公共のために役立つC(12)
5		情報に振り回されないために(技術)			
6	☆避難訓練・避難経路の確認・保護者引き渡し場所の確認		仙台市シェイクアウト訓練		
7	・故郷復興プロジェクト				郷土のことを考えるC(16)
8	・避難所運営訓練			避難所運営訓練	
9	・五橋祭		☆絆を力に一つずつ(2章①)		☆約束(2章②)
10					
11	・避難訓練 ・職場体験 ・震災講話	気象災害への備え(理科)	震災講話 震災当時の様子を体験者から伺う	・避難訓練 ・事業所の防災対策を学ぶ	
12				☆がんばれ日本!世界は日本と共にある(5章⑤)	
1		☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章⑥:保健)			
2		☆仙台市復興状況を知ろう(2章⑦:社会) ☆様々な自然災害に備える(4章③:理科) ☆仙台平野災害の歴史を学ぼう(3章④:社会)		・地域の災害リスクについて知る	
3					☆一步一步...(1章③)

☆仙台版防災教育副読本

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 001
仙台市立東二番丁小学校	担当者	石井 妙子
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：震災から8年が過ぎ、上学年児童でも震災当時の記憶はほとんどなく、学校や保護者、テレビなどから報は得ているものの、津波による具体的な被害や、当時の地域の様子などを理解している児童は少ない。避難訓練には真剣に取り組む、災害時の避難の仕方は理解してはいるが、幅広い防災対応能力や地域に協力する大切さの理解には課題が見られる。 ・保護者：学校教育への関心が高く、引き渡し訓練などの学校行事や懇談会への参加者は多く、協力的な家庭が多い。非常時には、同窓会・PTA 役員・保護者は、避難所運営等に協力的であると思われる。 ・地域性：仙台市の中心地にあり、商業化が進み、旧来の住民は減少し、マンション住民が増加している。防災に関する町内会等の住民組織の機能は弱く、自治的な地域防災訓練などは行われていない。 ・東日本大震災の地域の状況：オフィスビルや公共施設が林立している地域なので、近隣の駅やビルから多数の避難者が集まった。当時在籍していた本校児童の住宅等の被害はほとんどなかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 3
<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する正しい知識を持ち対応方法を身に付け、落ち着いて行動し、安全を確保できる児童 ・災害時やその後の対応、地域の復興に向けて、進んで他の人や地域の人と協力することができる児童 		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント	東日本大震災の体験者の講話や、震災遺構・震災資料を活用した防災教育	
4 児童生徒の変容	体験者から直接話を聞いたり、自分の関心を生かして調べたりしたことにより、防災の大切さや人の関わりの大切さに気付き、自助・共助に対する考えを深めることができた。	
5 実践の具体	<p>(1) 総合的な学習の時間で「震災遺構 荒浜小学校」を活用した授業を実施</p> <p>① 家族・親戚など身近な人の震災体験を聞く。</p> <p>② 共通体験 ・震災時荒浜小学校校長先生より荒浜小の様子講話 ・同窓会会長より、一番町商店街や店の様子講話 ・震災遺構荒浜小学校見学 ・東北大学減災教育「結」プロジェクト</p> <p>③ 個人課題設定 ・学校周辺での避難の方法 ・地域の一員として自分にできること ・避難所やその後の生活 ・大きな地震のメカニズム 等</p>	
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること	<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。	
※ 1, 2 の <input type="checkbox"/> の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

東二番丁小学校 防災教育年間指導計画

第5学年

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳
	関連行事等				
4	・自転車安全教室 ・地区子ども会集団下校 訓練	・天気の変化 (理科) ☆【いろいろな 自然災害】 (P24)	大雨 暴風	・自転車の点 検,正しい自転 車の乗り方	・ありがとう 上手に (尊敬・感謝)
5	・たてわり遠足 ・防犯教室 ・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練		地震	・避難訓練 事前・事後指導 ☆【災害時に くらすヒント】 (P36)	・遠足の 子どもたち (自由・責任)
6					
7	・七夕飾りづくり(折り鶴) ・地区子ども会集団下校 訓練 ・一番町三社まつり		台風 大雨	・夏休みの生活	☆【希望の詩 ～「ない」～】 (P10)
8	・東二夏まつり				
9	・震災遺構荒浜小学校 見学(地震・津波)	・台風と天気の変 化(理科) ☆【いろいろな 自然災害】 (P24)	「災害に負けない～守 ろうみんなの命,つくろ うみんなの未来～」	地震 建物の火	
10	・避難訓練(地震) ・東二合同避難訓練 (火災)	☆【心と 向き合って】(体 育)(P42)	①身近な震災体験を調べよう ②荒浜小の当時の様子を知ろう ③震災当時の地域の様子を知ろう	・避難訓練 事前・事後指導	・親から子へ, そして子から孫 へと (郷土愛)
11		浸水 洪水 ・流れる水の はたらき(理科)	④ 荒浜小見学 個人課題設定	☆立ち上がれ! ぼくらの復興プ ロジェクト(P18)	
12	・地区子ども会集団下校 訓練	・情報を生かす わたしたち (社会) ☆【災害時の 情報手段】 (P26)	⑤東北大学減災教育「結」プロジェクト		・冬休みの生活
1					
2	・地区子ども会集団下校 訓練		伝え合い		・わたしの ボランティア体 験(勤労・社会 への奉仕)
3	・故郷復興プロジェクト		振り返り	大地震 津波 ☆【震災を乗り 越えて】(P56) ☆【防災の知識 をチェックしよ う】(P58) ☆【仙台の自然 災害年表,復興 年表】(P62)	・春休みの生活

☆仙台版防災教育副読本活用

仙台市立片平丁小学校

担当者 木村 慎吾

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・**児童生徒**：過去に大きな地震があったということは低学年も認識はしているが、具体的な状況などはよく分かっていない。安全・防災に関する知識や対応力はあるが、地域防災訓練への参加率は非常に低く、地域に協力することの大切さの理解について課題が見られる。
- ・**保護者**：授業参観や引き渡し訓練などの参加率は非常に高く、協力的な家庭が多い。反面、防災に関しての意識には温度差があり、地域防災訓練などに参加する保護者は固定されたメンバーとなっている。
- ・**地域性**：連合町内会を母体とした「片平まちづくり会」がまちづくりをはじめ、地域防災をマネジメントしている。広瀬川の氾濫を想定し、各地区の防災力の向上に努めている。東日本大震災時の地域の状況：家屋の倒壊などはないがライフラインが停止した。仙台駅の近くだったため、指定避難所は帰宅困難者であふれた。地域の方が利用できないこともあったため、震災後各地区での自主防災が重要視されることになった。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・3・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 進んで他の人や地域の力になれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「顔の見える防災」地域連携の推進

総合的な学習の時間において、地域防災に関わる人と出会い、震災当時のことや、今後のまちづくりにかける想いに触れる場面を設定する。進んで他の人や地域の力になれる児童を目指して計画的に学習を進められるようにする。

4 児童生徒の変容

- ・自ら身の回りの危険箇所に気付くことが増えた。
- ・地域課題に興味をもち、積極的にまちづくりに関わろうとする意欲が見られた。

5 実践の具体

(1) 「大地震の揺れを体験しよう」(6年 総合的な学習の時間)

スモリの家(ハウス・スタジアム内体験)で震度6の地震体験を行った。実際に体験することで災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、臨機応変に自らの安全を確保する自助の力を高めることができた。児童の声：「防災グッズを備えたい」「耐震のしっかりした家をたてたい」「普段から倒壊の危険性のある場所をチェックしておきたい」

(2) 「片平の地域防災」(6年 総合的な学習の時間)

東日本大震災の地域の様子を地域の方(SBL)から話しをしてもらった。当時の様子や、現在の地域課題(水害時の対応)について考えた。普段は気付かない身の回りの危険について意識することもできた。今後自分たちが地域のためにどのようなことができるのかについて考え、学習した内容を市民センターの掲示板に貼りだし、自分たちの気付きを地域に発信した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用

3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災教育年間指導計画

片平丁小学校 第6学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
	4	・避難訓練(避難経路確認・火災) ・交通安全教室 ・集団下校訓練				・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	
5	・集団下校訓練 ・(家庭訪問)		片平のまちづくり 自分の町を見つめよう		☆大きな災害と人間の心の動き(3章⑤) ・集団下校のための縦割活動		☆家族防災会議(4章④)
6	・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 ・地域合同防災訓練		地域の防災訓練に参加しよう 水害時の対応	防災ゲーム「BOTA」	・避難訓練事前事後指導 ☆家族防災会議を開こう(4章④)		☆大きな災害(3章⑤) ・土石流の中で救われた命
7	・復興プロジェクト(折鶴作り)				☆チャレンジ! 子ども防災モニター(4章⑤)	・夏休みの生活 ・キャンドル制作	
8	(地域行事への参加) ・瑞宝殿七夕キャンドルナイト					・地域行事への参加	・4(7)郷土愛・愛国心
9				☆地震を乗り越えようとした先人の知恵(4章⑨)			
10		・大地のつくりと変化(理科)		大地震の揺れを体験しよう(スモリの家)	☆災害に備える(4章③)		・おばあちゃんのがしもの
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)	☆津波のメカニズムを知ろう(3章②:理科)	片平の地域防災 東日本大震災		・避難訓練事前事後指導		
12		・災害から人々を守る(社会)		☆未来へつなぐ(2章③)		・冬休みの生活	
1		☆人々をつなげる活動(5章②:社会)	自分たちができること				・お母さんへの手紙
2		☆つながる～世界の国々と～(5章①:社					
3	・復興プロジェクト(東日本大震災にかかわる集会)				☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		・新しい日本に

☆ 副読本活用

仙台市立荒町小学校

担当者 村上 竜彦

1 学校・地域の実態 → 1 - 4

- ・ **児童生徒**：全児童数は494名で学級数は20学級（特別支援学級4学級を含む）である。隣接する学区から通学する児童も多いが、通学時間は長くても徒歩20分程度である。現在、被災地域からの転入など配慮が必要な児童の在籍はない。
- ・ **保護者**：引き渡し訓練に参加してくださる家庭が多く、教育活動に協力的な家庭が多い。
- ・ **地域性**：若林区の仙台市中心部近くにあり、東日本大震災の経験と教訓から、地域の人々と協力しての防災への意識が高い。学区内には広瀬川があり、地震による被害だけでなく、大雨による洪水の危険性もある地域である。古くからある商店街には、ブロック塀や古い家屋の瓦屋根が通学路に面している箇所もあり注意が必要である。地域に「wakka」という防災サークル（防災リーダーを数名含む）があり、学校活動に協力していただいている。
- ・ **東日本大震災時の地域の状況**：震災当日は1400～1500人の避難者が本校に避難してきた。体育館だけでは収まらず、校舎を開放した。震災の翌日には電気と水道が復旧するなど、ライフラインの復旧は早かった。地震の揺れによる校舎の損壊などもなかった。

2 目指す児童生徒の姿 → 2 - 3

- （自助）自ら危険を予測し、命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。
災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し、知識を活用できるようにする。
- （共助）進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができるようにする。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・ 震災の教訓と記憶の風化の防止
- ・ 自分の命を守り抜くために必要な実践的な知識

4 児童生徒の変容

- （自助）自分たちが住む地域も災害が起きる可能性があること、災害によって避難の方法が異なることに気付くことができた。（1年）
- （共助）荒浜小学校見学後の感想には、将来に向けて教訓を引き継ぐ大切さを述べているものも見られた。（4年）

5 実践の具体

（1）荒町小防災の日

○防災副読本を活用した授業（1年 ひなんの仕方を考えよう）

地震が起きたとき、大雨による洪水が起きたときで避難場所が変わるということを、アニメーションや副読本を活用して学習した。学区内に広瀬川が流れる本校の児童にとっては必要感ある内容だったので、自分の通学路を思い出しながら考えることができた。

○防災体験活動（1年 防災ダック）

地震や火事、雷や洪水が起きた時の自分の命の守り方について、動物の恰好をまねる活動しながら学習した。防災サークル「Wakka」の方々がゲストティーチャーとして説明しながら実演してくださったことで、災害が起きたときのそれぞれの対処法の違いを知ることができた。

（2）震災遺構荒浜小学校見学（第4学年）

○社会科単元指導内容のいっそうの充実

社会科では、今年度「地震からくらしを守る」を選択した。震災時に避難場所となった学校の様子や、備蓄してある生活必需品について調べ学習に取り組んだ。例年「火事からくらしを守る」で実施している消防署見学のように、外部の団体との連携についてもこれから模索していきたい。

○震災遺構の活用

東日本大震災の記憶が乏しい4学年児童にとって、荒浜小学校の見学は震災の被害について具体的に知る機会となった。今後は保護者や地域の方々など身近な経験談や、そこから得られる教訓も掘り起こしていきたい。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
	4	・学区通学路の安全確認 ・登校指導	社会:火事(地震)からくらしを守る①			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ☆東日本大震災発生(1章①)	
5	・家庭訪問 ・交通安全教室	社会:事件や事故からくらしを守る, 理科:天気と気温①					4また来年も待ってるよ(自然愛)
6	・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 ・荒町防災の日 ・震災遺構荒浜小学校見学	理科:電気の働き①, 体育:浮く・泳ぐ運動①, 育ちゆく体とわたし			・引き渡し訓練 事前事後指導		
7					・夏休みの生活		11「もっこ」をせおって(勤労・奉仕)
8	・学区通学路の安全確認	社会:水はどこから			・地域行事への参加		
9	・地域防災訓練		みんなに住みよい町を考えよう①				22しょうぼうだんのおじいさん(感謝)
10		社会:郷土の発展につくす	バリアフリー体験	☆災害に備える(4章⑤) ・各種機能訓練			26千春とわたし(家族愛)
11	・避難訓練(火災)	理科:水のゆくえ①			・避難訓練事前事後指導 ☆災害から身を守るために(4章②)		27「ありがとう」の言葉(礼儀)
12	・「地震対応マニュアル見直し」感謝の会	理科:自然の中の水の姿①				・冬休みの生活	
1	・「地震対応マニュアル見直し」	社会:県の広がり①					
2	・防災教育指導計画、全体計画作成	社会:特色のある地域と人々のくらし①					31走れ江ノ電光の中へ
3	・「防災の日」3/11				☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活	

☆ 副読本活用

仙台市立七北田中学校

担当者 小山 紘明

1 学校・地域の実態 → 1 - 4

- ・児童生徒：全校生徒は 489 名である。学区が広く、七北田小・市名坂小・野村小が学区内にあり、登下校に 30 分程かかる生徒もいる。避難訓練では素早く行動はできているが、主体的に考えたり行動したりせず、指示を待つ傾向がある。また、震災後は特に地域住民の入れ替わりが激しく、学校生活でもコミュニケーション不足による落ち着きのなさが目立った。そのため、グループワークやボランティア活動を推進して、生徒間または地域との交流をもたせることを全校的に取り組んできた。
- ・保護者：教育への関心が高く、協力的な家庭が多い。
- ・地域性：仙台市の北部に位置し、マンションや商業施設が立ち並ぶ泉中央地区の東側に位置している。泉ヶ岳、七北田川をはじめとする自然豊かな環境と複合商業施設に隣接した学区である。大雨時には七北田側が氾濫する可能性がある。長くから続く地域がある一方、泉中央駅周辺では高層マンションの建設も増加し、転勤で引っ越してくる家庭も多い。
- ・東日本大震災時の地域の状況：体育館に被害があり、避難所を開設することができなかった。余震が続いたため隣接する小学校体育館と中学校武道館が避難所となった。また、水を求めて避難者以外にも多くの地域住民が学校を訪れた。

2 目指す児童生徒の姿 → 2 - 4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
- (共助) 災害等の非常時に進んで他の人や地域の力になろうとする生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・地域の特性を踏まえて、地域と協力して行う防災教育
- ・共助の力を高めるグループワークやボランティア活動の推進

4 児童生徒の変容

- (自助) 避難訓練を通じて、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、早い時間で避難することができるようになった。
- (共助) 合同防災訓練実施後のアンケートでは中学生の災害時の役割を認識し、普段からの交流の大切さを実感したという感想が多くあった。

5 実践の具体

(1) 震災の経験を語り継ぐ (3年)

11月の小学校区合同防災訓練において、震災当時に避難所の運営を担当した、現SBLの方から講話を聞いた上で、避難所運営の訓練に地域の方と協力して参加した。



(2) ボランティア活動 (BSプロジェクト)

中学校独自の企画や、地域支援本部や小学校からの要請を受け、生徒に呼びかけ、個人単位や部活動単位で活動に参加している。以下実施例

- ・校区あいさつ運動
- ・小学校での夏休み学習支援
- ・児童センターまつり
- ・小学校行事の運営補助
- ・地域の花壇の花植活動
- ・市民センター行事



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合		特別活動	道 徳	
4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導 と通学路の確認 修学旅行事前指導 ・避難方法と避難経 路の確認	・集団訓練(保体)		・修学旅行集団訓練			・生きる力 ・規則の意義 ・語り部として【副】
5	・校内安全点検 ・連絡網の確認						・仕事に生きる ・約束【副】
6	・校内安全点検 ・市中総体時の災害 発生への対応指導	・地震に備えよう (理科)【副】			・避難訓練(地 震想定) ・集合訓練	【BS】花植え	・明日に向かって 【副】
7	・校内安全点検 ・合唱コンクール ・地区会(顔合わせ)						
8	・校内安全点検	・世界で最も自然災 害のリスクが高い日 本(理科)【副】				【BS】ゆめフェス サマースクール	
9	・校内安全点検						
10	・校内安全点検 ・体育祭	・体育祭練習(保体)	・情報に振り回さ れないために 【副】				
11	・校内安全点検 ・地域合同防災訓練 (炊き出し訓練) ・地域防災行事への 参加	・仙台市震災復興計 画を知ろう(社会) 【副】		・体験学習(避難所 運営)	・避難訓練(火 災想定) ・一時避難所か らの避難誘導		
12	・校内安全点検 ・地域連携行事への 参加	・古典に残る災害を 読んでみよう(国語) 【副】					・生き抜く力
1	・校内安全点検				・がんばれ日 本!世界は日 本と共にある 【副】		・人間への慈しみ
2	・校内安全点検						・奉仕の心 ・公聴のモラル
3	・校内安全点検 ・東日本大震災追悼 行事				・防災知識を チェックしよう 【副】	【BS】地域清掃	・命をいとおしむ

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 089
仙台市立七北田小学校		担当者 高橋 圭
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：震災から8年が過ぎ、震災当時の記憶が残っている児童は少ない。本やテレビ等で震災について知っていることはあっても、実際に被災地を訪れたり、具体的な被害状況を理解したりしている児童は少ない。災害時の備えをしている家庭も多くなっているが、児童が自らできることを考えて行動したり、他者と協力して行動したりすることの大切さへの理解には課題があると言える。 ・保護者：引き渡し訓練や学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、町内会や子供会への行事へ参加しない家庭も多い。 ・地域性：毎年、町内会の役員の方が中心となり、地域と学校が連携して小中合同地域防災訓練を行っている。役員以外の一般参加者が少ないことが課題であると考えられる。 ・東日本大震災時の地域の状況：地域的には、市街地であるため地震による被害が主であった。避難所運営は町内会と学校が中心となって行った。七北田中学校校舎損壊があり、一時的に小学校、仙台商業高等学校の校舎を共同利用した。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・3・4
<p>(自助) 自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために、主体的に行動できる児童。</p> <p>(共助) 進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる児童。</p>		
<h3>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</h3> <p>○「震災の教訓と記憶の風化を防止するために、人的・物的な活用を生かした防災教育」</p> <p>4年生の総合的な学習の時間の防災教育において、震災当時の地域の様子と沿岸部の様子を段階的に学習できるよう年間計画に位置付け、ゲストティーチャーや震災遺構荒浜小学校を活用しながら学習を進めるようにした。また、小中地域防災訓練での体験を総合的な学習の時間と関連付けて学習を進めた。</p>		
<h3>4 児童生徒の変容</h3> <p>○東日本大震災当時1,2歳で、震災の記憶のない児童であったが、震災遺構荒浜小学校の見学やゲストティーチャーの講話を通して、荒浜地区と七北田地区の被害の状況を目の当たりにし、衝撃を受けた。その体験をもとに、自助・共助について自分たちにできることは何かを真剣に考えるようになった。</p>		
<h3>5 実践の具体</h3> <p>○『好きだっちゃ七北田 ～防災・減災編～』（4年生 総合的な学習の時間）</p> <p>(1) 『東日本大震災について知ろう』</p> <p>6月に実施した震災遺構荒浜小学校見学をはじめ、仙台版防災教育第1章及び第6章や、元荒浜小学校校長川村孝男先生の講話を基に作成したスライドなどの活用を通して学習を行った。東日本大震災の被害の大きさを肌で感じ、沿岸にいた時に津波が起きた場合の避難行動について考えさせた。</p> <p>(2) 『災害に備え、自助・共助について考えよう』</p> <p>東日本大震災当時の地域の様子について、当時の町内会長さんや消防団長さんをゲストティーチャーとして招き、避難所や地域でどのように人々が協力し合って活動したのかなどについて話してもらった。また10月に実施した小中地域防災訓練での防災授業や救命講習を通して、自助・共助のために自分たちができることを考えさせた。</p>		
<h3>6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること</h3> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

七北田小学校防災教育年間指導計画

4年生

防災対応能力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防 災 や 災 害 に 関 す る 周 辺 的 ・ 基 礎 的 な 内 容	防 災 や 災 害 に 関 す る 直 接 的 な 内 容	防 災 や 災 害 に 関 す る 間 接 的 な 内 容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳
4	防災訓練① 交通安全教室①	火事からくらしを守る【社会】 副読本 〈災害から身を守るために(4章②)〉		避難経路の確認 避難訓練事前事後指導 副読本〈東日本大震災発生(1章①) 交通安全教室事前事後指導	
5	安全の日 防災訓練② 防災訓練③	事故や事件からくらしを守る【社会】 副読本 〈災害が起きたら(4章①)〉		避難訓練事前・事後指導	
6	安全の日 防災訓練④	すみよいくらしをつくる【社会】 副読本〈災害に強い街づくりを目指して(2章③)〉 浮く泳ぐ運動【体育】	好きだっちゃ七北田！～ 防災・減災編～ 震災遺構荒浜小見学 副読本 〈マグニチュード9.0(1章)・東日本大震災の記録(6章②)〉	避難訓練事前・事後指導 副読本 〈災害が起きたら(4章①)〉	
7・8	安全の日				副読本 〈一番大切なことは(2章⑥)〉
9	安全の日 交通安全教室②			避難訓練事前・事後指導 副読本〈災害に備える(4章⑤)〉 交通安全教室事前事後指導	
10	安全の日 防災訓練⑤ 小中地域防災訓練	郷土を開いた人【社会】	好きだっちゃ七北田！～ 防災・減災編～ 副読本 〈取り組もう！ボランティア活動(5章③)〉	副読本 〈災害から身を守るために(4章②)〉 防災訓練事前・事後指導	ドローイング・チャレンジ(2・4年防災交流学習)【学活】
11	安全の日 復興プロジェクト		好きだっちゃ七北田！～ 防災・減災編～ 副読本 〈復興への第一歩(2章②)〉	副読本 〈立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト(2章⑤)〉 (復興プロジェクト)	
12	安全の日 防災訓練⑥	わたしたちの県【社会】	好きだっちゃ七北田！～ 防災・減災編～ 副読本 〈家族防災会議を開こう(4章⑥)〉	防災訓練事前・事後指導	
1					
2	安全の日		副読本 〈震災を乗り越えて(5章④)〉	防災訓練事前・事後指導	
3	安全の日			副読本 〈防災知識をチェックしよう(6章①)〉 〈仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)〉(学活)	

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 1 2 3
仙台市立市名坂小学校	担当者	宮本 尚
1 学校・地域の実態	➡	1. 3
<p>・児童生徒：震災から8年が過ぎ、ほとんどの児童は震災のことはあまり覚えていない。また、直接甚大な被害を受けた家庭も少なく、震災について自分のこととして真剣に考える児童は少ない。そのため震災が起きたときの学校以外での防災の対応のしかたについての理解が浅い。一人でいるときにどう行動をとるか、自助の理解についての課題が見られる。</p> <p>・保護者：転勤族が多く、新しいマンションと古くからの住宅街が混在している。引き渡し訓練など学校行事などへの参加者は多く、協力的な家庭が多い。また、学校支援地域本部を軸に学校ボランティア活動が大変盛んである。共働きが増え、児童館に通わせている家庭も多い。</p> <p>・地域性：連合町内会合同で本校体育館において毎年6月の第三土曜日に避難所開設訓練を実施している。避難所運営委員会事務局を中心に、町内会の新役員が集まって訓練を実施している。学校のすぐ南部に七北田川が流れており、洪水浸水想定地域に指定され、今年度は今までに3回避難所開設を行った。</p> <p>・東日本大震災時の地域の状況：ライフラインの電気、水道の復旧は早かった。校舎は新築7年目と新しい建物であったが、壁はあちこちで崩壊し、荷物は氾濫し、ロッカーの扉やガラス、ストーブなどの破損が見られた。体育館はバスケットゴールや校歌の掲示板が落下した。そのため、体育館の制限されたスペースや校舎内の多目的ホールなどが避難所になった。卒業式や入学式では体育館は使用できず、多目的ホールで行った。避難所運営は学校と町内会が協力して運営することができた。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2. 3
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童を育成する。</p> <p>(共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童を育成する。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント	総合的な学習の時間を中心とした防災教育	
4 児童生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・荒浜小学校等の見学等を通して津波の恐さを知り、東日本大震災を未来に伝える必要性を実感した。 ・避難行動に対する意識が高まり、避難訓練の意義を改めて理解した児童が多い。 	
5 実践の具体	<p>(1) 総合で「震災遺構 荒浜小学校」を活用した授業を実施</p> <p>東日本大震災の遺構の見学や体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組で地震の恐さや地震被害の甚大さを理解し、防災について考えることができた。また、避難所運営委員会事務局長による講話で、当時の避難所の様子などについて知り、毎年避難所組織や運営の改善を行っていることも分かった。</p> <p>(2) 防災カルタ等の啓発活動</p> <p>5学年のPTA学年行事として実施。遊びながら地震や大雨などの災害に対する備えの知識を学び、防災意識を高める啓発活動を行った。</p> <p>(3) 避難訓練の事後指導の徹底</p> <p>避難訓練は4回実施した。1回目は地震を想定した避難訓練。2回目は休憩時間に自分で判断しての自主避難訓練。3回目は給食室4回目は家庭科室を火元として火災場所が変わると避難経路も変わり放送をよく聞くことが大切であることを意識づけた。事後指導ではよりよい避難行動になるよう指導を行った。</p>	
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 	

防災教育年間指導計画【5学年】

仙台市立市名坂小学校

防災対応力の構成要素 学習内容		知識		技能		態度	
		防災や災害に関する		防災や災害に関する		防災や災害に関する	
月	関連行事等	教科	総合的な学習の時間	特別活動	道徳		
4	避難経路指導 家庭訪問	・天気の変化(理) ・わたしと家族の生活(家)			・登下校の安全 ・避難経路確認 ・非常時下校体制確認	☆歩み出す力強く(1章②)	4(7)郷土愛 桜を守る
5	交通安全教室(低) 自転車教室(中) 防犯守ろうデー Jアラート訓練 修学旅行(6年)	・国土の地形の特色と人々の暮らし(社) ・こんろの安全な取り扱い(家)			・Jアラート発生時の安全 ・避難訓練事前事後指導 ☆避難の仕方を考えよう ☆あの日3.11(1章①)		
6	防犯守ろうデー 避難訓練【地震】 学校引渡訓練 野外活動(5年)	・国土の地形の特色と人々の暮らし(社) ・野外炊飯(家) ・かたづけよう身の回りの物(家)		・地域の方の話を聞く	・地震災害時の安全 ・避難訓練事前事後指導 ☆ひなんの仕方を考えよう(4章③)		3(1)生命尊重 なぜわたしたちは生まれてきたのかな
7	自転車教室(中) 防犯守ろうデー 防犯安全教室				・気象災害時の安全(風水落雷)	・夏休みの生活	
8						・地域行事への参加	
9	避難訓練【休憩時】 防犯守ろうデー	☆いろいろな自然災害(3章③:理科) ・台風と天気の変化(理) ・けがの防止(体)			・火災災害時の安全 ・避難訓練事後指導		
10	防犯守ろうデー	・流れる水のはたらき(理) ☆心と向き合って(4章⑧:体育)	・防災カルタ	・防災に関する実践			
11	防犯守ろうデー 避難訓練【火災】	・情報を生かすわたしたち(社) ・震災遺構荒浜小見学(総)			・火災災害時の安全 ・避難訓練事前事後指導 ☆立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト(2章④)	・避難訓練事前事後指導	
12	防犯守ろうデー	☆災害時の情報手段(3章④:社会)			・気象災害時の安全(雪害)	・冬休みの生活	3(1)生命尊重 生きています15歳
1		・社会を変える情報(社)				☆Heroes 2011 Japan (5章⑤)	
2	防犯守ろうデー	・わたしたちの生活と森林, 自然災害を防ぐ(社) ・心の健康(体)		・地域の防災について発表	☆防災知識をチェックしよう(6章①)		
3	防犯守ろうデー				☆仙台的自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活	3(1)生命尊重 命の時間

☆副読本活用

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 090
仙台市立野村小学校		担当者 常世田 研
1 学校・地域の実態	➡	3・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：全校児童 31 名の少人数構成である。防災について授業実践を行い、少しずつ防災意識が高まっているが、被災地を訪れたり具体的な津波被害状況を理解したりしている児童は少ない。 ・保護者：保護者は PTA 役員に何度もなるなど学校とのかかわりが深く、兄弟、父母、祖父母など互いに顔見知りが多い。引き渡し訓練の参加や参観授業、行事への参加、懇談会への参加共に良好で協力的である。一方、東日本大震災時に大きな被害を受けた家庭は少なく、当時の記憶も薄れてきている。 ・地域性：児童は毎日防犯ボランティアに見守られ集団登校する。青年会・敬老会・消防団・婦人会などが組織され、田植え・稲刈り・美化活動・若草太鼓で児童との交流も深い。学校行事や学習活動に親密に協力していただける人材も豊富。反面、連合町内会として一堂に集まる機会は少なく、防災関連でのつながりも希薄である。学区内は東西に横長で北はスポーツ施設シェルコムがあり、東は泉中央繁華街が隣接し、南は七北田川が流れ、西は水田が広がる自然豊かな土地である。豪雨時、浸水危険地域を多く含む。 ・東日本大震災時の地域の状況：建物等への大きな被害はなく、避難所利用の地域住民も多くはなかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	3・4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、冷静な判断力や臨機応変に自らの安全を確保することができる児童</p> <p>(共助) 災害発生時に地域の方々がどのような役割を担っているかを知り、自分が地域や家庭のために役立ちたいとする心情を持つ児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・地域合同防災訓練から始まる「自分づくり教育」の実践 		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災知識を獲得し、感じていた不安が軽減し、準備や情報、家族での話し合いの大切さを知った。 ・「守ってもらおう」から「自分ができること」を考えるように変容した児童が見られた。 ・最悪のことが起きたとしても前向きに考えることの大切さを感じた児童が見られた。 ・地域住民が協力して地域を守る姿を見て、憧れ尊敬の心を高めた。 ・実際、10・12 台風による洪水・浸水被害の際、児童の進言で家族が避難所に訪れたことがあった。 		
5 実践の具体		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同防災訓練を計画・実施し、防災授業を同時に行い、地域住民に参観を促すことで、児童や地域住民が地域防災を自分たちのこととしてとらえられるようにした。 ・学校が関連機関・団体に働きかけ、連合町内会長を防災リーダーとした初めての地域合同防災訓練を実現に向けて計画を進めた。 ・様々な防災授業を学級担任に提案し、総合的な学習活動を軸とした教科横断的な実践を働きかけた。 ・アンケート調査や会議によって児童及び地域住民における防災意識の変容を把握し、次年度以降の防災教育計画に反映した。 ・荒浜小震災遺構見学を 5 年生・6 年生で実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 5 年生は、実際、震災被害に遭われた方からお話をいただく機会を設けた。 ➢ 6 年生は、荒浜小震災遺構見学に向け、事前に保護者にインタビューし、震災当時の様子を知った。 		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和 2 年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に対する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に対する 直接的な内容		防災や災害に対する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活	道徳	
4	交通安全教室 避難訓練	学校のまわり・社会C(2)	大雨, 河川 洪水・浸水		登下校の安全 B(1)	大雨, 浸水 大地震, 建物 倒壊, 道路の 遮断, 倒木	
5	家庭訪問・全校田植え 地域共催運動会						
6	宮城県民防災の日 避難訓練・美化活動① 地域合同防災訓練 引き渡し訓練	市の様子・社会C(2)	☆防災マップ づくりC(2)	☆避難の仕方 を考えよう B(1)	避難訓練事後 指導		
7	野村っ子祭り 復興プロジェクト	浮く・泳ぐ運動・体育B(1)	☆地震について 知ろうA(2)			夏休みの過ごし方D(1)(2)	
8			大雨: 河川 洪水・浸水				
9	敬老会行事参加 全校稲刈り	着衣水泳・体育B(1) ☆雨・風・雷について知ろう A(1)(2)			☆自分で決めるD(2)		1さつのおくりものE(2)
10	全校遠足				☆家族ぼうさい会をひらこうC(1)		
11	学習発表会・美化活動2 避難訓練 地域神社祭り参加 復興プロジェクト				避難訓練事後 指導		
12	野村っ子オリンピック					冬休みの過ごし方D(1)(2)	
1		古い道具と昔の暮らし(社会)C(1)	津波, 大雨, 増水, 河川洪水・浸水, 落雷, 防風, 建物 倒壊, 道路の遮断, 倒木				
2		安全を守るための諸活動・社会A(4)					おじいちゃん, おばあちゃん, 見てねE(3)
3	みやぎ鎮魂の日 復興プロジェクト				☆防災知識をチェックしよう		

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 226
仙台市立中山中学校	担当者	遠藤 桂
1 学校・地域の実態	➡	1 - 3
<p>・児童生徒：震災から8年が過ぎ、当時小学生だった生徒たちは震災のことをあまりよく覚えていないのが現状だ。また、震災自体に関しては、様々なところから情報を得ているが、実際に被災地を訪れたり、津波による具体的な被害の状況を理解している生徒は少ない。したがって、災害が起きたときのとっさの判断力が課題になると思われる。しかし、震災以降、防災グッズ等を購入したり、避難訓練に今まで以上に本気で取り組み、災害に備えている生徒が多く見られるようになった。</p> <p>・保護者：引き渡し訓練や地域清掃などの行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、地域とのつながりに煩わしさを感じ、町内会や子供会などの行事には参加しない家庭もある。</p> <p>・地域性：毎年地域防災訓練を行っており、地域の組織づくりは進んでいると感じている。</p> <p>・東日本大震災時の地域の状況：地域的には山の上にあるので、震災当時は、地震による被害が主で、一部で家屋の倒壊も見られた。学校が避難所となり、利用する住民も多く、ライフラインが止まったことで、地域の人が協力して炊き出しをするなどして震災を乗り切った。避難所運営は、学校と地域の人が中心となって行ったが、ほとんどが手さぐりの状態だった。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 4
<p>(自助) 平常時から災害に備え、災害時に冷静に判断し、自らの命を守り、自らの安全を臨機応変に確保できる力。</p> <p>(共助) 平常時から進んで他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力し参画できる力。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
避難訓練と地域防災訓練をメインとした防災教育		
4 児童生徒の変容		
<p>・平常時から災害のことを考え、防災グッズを購入する生徒が今まで以上に増えたり、以前よりも地域防災訓練への関心が高まり、参加希望生徒が増えたりしたこと。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 地域防災訓練への参加 今年度の地域防災訓練には、生徒は強制ではなく、任意の参加であった。そのため、地区生徒会の時間を確保し、地区ごとに「地域防災訓練の意義」と「災害時の地域における中学生の役割」について考える時間ととった。当日の訓練には予想より多くの生徒が参加の意思を示し、地域のことを考えるいい機会となった。(実際は大型低気圧の影響で避難所開設となり中止)</p> <p>(2) 防災副読本の活用 防災副読本を活用し、現時点での自分自身の防災知識をチェックさせた。グループでの話し合い活動を通して、災害を想定した家庭の備えを見直すいい機会となった。</p> <p>(3) 地震や火災を想定した避難訓練 例年、年2回の避難訓練を計画している。5月には地震、11月には火災を想定した避難訓練を計画した。今年度は2回とも雨天のため体育館への避難となってしまったが、廊下で渋滞することなくスムーズに避難することができ、雨天時避難のいい訓練ができた。11月の避難訓練には、青葉消防署荒巻出張所の署員の方々に来ていただき、防災について気を付けるべき点などを直接聞くことができた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、令和2年度課題となること		
<p>■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。</p>		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理 気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

第3学年 仙台版防災教育年間指導計画

仙台市立中山中学校

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
	4	・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難経路の確認 ・緊急時連絡用(引渡カード)作成 ・地区生徒会	・「集団行動訓練」(保体)			・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆語り部として(1章③)
5	・修学旅行事前指導	・「都市の発展と関東大震災」(社会[歴史])		・修学旅行緊急時の対応, 実践行動(総合)		☆約束(2章②)	・ようこそ「やねせん」へ[4-(8)郷土を愛する心]
6	・中総体緊急時の対応指導 ・春の防災訓練 ・集団下校訓練		旅行業者との打合せ・事前指導・対応マニュアルの作成		☆地域の一員として(5章③) ・避難訓練(地震・集団下校・引渡)		・一枚の葉[3-(2)自然への畏敬]
7	・復興プロジェクト ・夏季休業中の安全指導		・地震を想定した避難訓練 ・引渡カードの確認			・春の防災訓練の事前指導として副読本活用	
8						・地域行事への参加	
9							・ひまわり[3-(3)生きる喜び]
10	・地域防災訓練	・地方の政治と自治(社会) ☆仙台市震災復興計画を知ろう(2章⑥: 社会)					・ぼっちゃれ[3-(2)自然への畏敬]
11	・秋の防災訓練 ・復興プロジェクト	・資源・エネルギー問題(社会[公民])		・防災講話(総合)		・地域清掃	・天使の舞い降りた朝[4-(6)家族への敬愛]
12		☆古典に残る災害を読んでみよう(3章⑦: 国語)			・学区内清掃ボランティア(小中連携)活動		
1						☆がんばれ日本! 世界は日本と共にある(5章⑤)	・土曜日の朝に[2-(6)感謝の心]
2		・よりよい社会をめざして(社会)			☆防災知識をチェックしよう(6章①)		
3	・春季休業中の安全指導						

☆ 副読本活用

★印は、「仙台版防災副読本」で特に大切と思われる学習内容。

令和元年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 043
仙台市立中山小学校		担当者 伊藤 潤也
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：6年生は震災当時4歳，ほとんどの児童は自宅で被災をしているが，当時の記憶が残っている者はほとんどいない。毎年行っている防災教育の蓄積で災害時における避難の仕方や，備えについての知識を持っている児童が増えているが，実践力が十分に備わっているとは言えない。 ・保護者：共働き世帯は多いが，引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く，協力的な家庭が多い。 ・地域性：15の町内会からなる連合町内会があり，連合町内会を中心として学校と連携した地域防災訓練を行っている。また，滝道地区に土砂災害警戒地域が含まれている。 ・東日本大震災時の地域の状況：荒巻の山を削り取り開発された団地のため，震災当時は，地震による被害が主で，一部で家屋の倒壊も見られた。避難所を利用する住民も多く，避難所運営は町内会と学校が中心になって行ったが，ほとんど手探り状態だった。学校再開後も1週間は体育館を避難所として開設し続けた。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	3・4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，災害時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童の育成</p> <p>(共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童の育成</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・「震災の教訓と記憶の風化の防止のために，<u>人的または物的な資源を生かした防災教育</u>」 6年生の総合的な学習の時間の防災教育において，震災当時の地域の様子と沿岸部の様子の学習と段階的に年間計画に位置付け，ゲストティーチャーや震災遺構荒浜小学校の活用をしながら学習が進められるようにした。 		
4 児童生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・震災当時6年生だった卒業生から，当時の校舎の被害状況や避難所での様子，子供たちも手伝った内容やそのときの思いを聞き，驚くとともに，身近な場所の被害を想像し，震災について思いを新たにしました。 ・災害時における避難の仕方は知っているが，震災の写真を変え，救助活動に携わった人の話から，対応方法について改めて考えていた。 ・震災遺構荒浜小学校の学習を通して，震災の甚大な被害を目の当たりにして，自分たちが後世に伝えなければならぬと感じていた。 		
5 実践の具体 <p>(1) 『地域の震災時の様子を聞く』ゲストティーチャーによる授業（6学年 総合的な学習の時間） 9月に東日本大震災時に6年生だった卒業生と，消防署勤務の元PTA会長をゲストティーチャーに招き，子供の視点から見た当時の中山や自分の命を守るために，どのように行動すればいいかなど，体験者からの話を聞いて，震災の教訓と記憶の風化の防止について学んだ。</p> <p>(2) 教科横断的な視点に立った扱い（5学年 理科） 5年生「流れる水のはたらき」の学習では，流水実験を行い，土砂災害についても扱った。その後，台風19号による被害の写真や情報をまとめた掲示物を理科室前に掲示し，学習内容と実生活を関連させて考えるきっかけを意図的につくった。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき，令和2年度課題となること 年間指導計画の更なる見直しが課題である。防災副読本が効果的に扱えるように，「扱うべき内容」について学年のつながりを考えながらバランスよく配置することが必要である。また，今年度扱った資料などの整備は行ったが，継続していく中で，適切な人材を確保し，地域と保護者と学校がさらに連携・協力できるようにすることが必要である。		
※ 1. 2の□の番号について： 1 学区内の地理，気象条件等，環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等，震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者，地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	4					避難経路の確認	
5	復興プロジェクト 地域巡り	東北歴史博物館 校外学習(社会) ☆仙台の自然災 害年表・復興年 表(6章③)					うちら「ネコの 手」ボランティア ☆震災を忘れ ない(1章③)
6	避難訓練(地震) 修学旅行 引き渡し訓練 ☆大きな災害と人間 の心の動き(3章 ④)		・会津地方の震 災の被害調べ ☆震災から文 化財を守りつづ 人々(4章⑧)	避難訓練・引渡 訓練の事前・事 後指導 ☆家族防災会議 を開こう(4章⑥) ☆災害から身を 守るために			
7		けがの防止(体 育)				夏休みの生活	土石流の中で 救われた命
8			・震災の被害調 べ ・課題設定			地域行事への 参加	
9		着衣水泳(体 育)			避難訓練の事 前事後指導	奉仕活動の事 前事後指導	
10	5校連携総合防災訓練 ・AEDの使い方 ・けがの手当て ・消火活動	大地のつくりと 変化(理科) ☆地震と津波 のメカニズムと 災害(3章①)		・震災遺構荒浜 小学校見学 ・防災担当の方 の話を聞く(ゲ ストティーチャー による授業①)	防災訓練 ☆応急手当の 方法と救急車 の呼び方(4章 ③)		
11	避難訓練(火災) 奉仕活動 ☆防災知識をチェッ クしよう(6章①)		☆災害に強い 町作りを目指し て(2章③)	・地域の震災時 の様子を聞く(ゲ ストティーチャー による授業②)			
12		震災復興の願 いを実現する政 治(社会) ☆人々をつなげ る活動(5章①)	☆復興への道 のりは続く(2章 ④)	・地域での調査 ・整理・まとめ ・発表		冬休みの生活	
1							
2		日本とつながりの 深い人々(社会) ☆つながる～世界 の国々と～(5章①)					小さな連絡船 「ひまわり」
3		世界の未来と 日本の役割(社 会)				春休みの生活	

☆副読本活用